

久留米城下町遺跡

(原古賀町一丁目)

— 第 31 次発掘調査報告 —

令和6(2024)年3月
久留米市教育委員会

序

久留米市では、令和2年度に『久留米市文化財保存活用地域計画』（令和3年度文化庁長官認定）を策定いたしました。この計画では、文化財を国県市の指定に関わらず「歴史遺産」として広く捉え、これを将来にわたって「見つけ守り、活かし伝える」方針を定めました。歴史遺産は、私たちの郷土に暮らす人々が古い時代から現代まで積み重ねてきた文化を体現するものです。この貴重な歴史遺産を次世代へ継承するため、本市では継続的な保存・管理を図るとともに、市民が身近な歴史文化にふれ、地域と自己のつながりを認識できる機会を提供することで郷土愛を醸成し、さらには学校・社会教育や地域振興、観光振興など、久留米の新たな魅力の創出につながる歴史文化のまちづくりを進めています。

本書で報告する久留米城下町遺跡も大切な歴史遺産の一つで、共同住宅に先立つ発掘調査として、令和4年度に実施したものです。発掘調査では主に江戸時代の遺構と遺物が出土し、貴重な成果を挙げることができました。

今回の発掘調査とその成果を収録した本書の発行によって、地域の歴史解明、さらに文化財保護の理解や普及等に多少なりとも貢献すると同時に、なにより本市の魅力の創出につながれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査および本書の発行に際しまして、多大なご理解のもとにご協力を頂きました関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

令和6年3月31日

久留米市教育委員会
教育長 井上 謙介

例 言

1. 本書は、共同住宅建設に先立ち株式会社エクストラパートナーの委託を受けて実施した久留米城下町遺跡第 31 次調査の発掘調査報告書である。
2. 本調査は久留米市教育委員会が主体となり、久留米市市民文化部文化財保護課の廣木誠が担当した。
3. 本書に掲載した遺構実測図は廣木が作成し、浄書は廣木・横井理絵が行った。また、遺物出土状況図および土層図は水系メッシュ法で、遺構配置図は株式会社 CUBIC 製ソフト「遺構くん cubic」で廣木が作成した。
4. 本書に掲載した遺構・全景写真および遺物写真の撮影は廣木が行った。遺構・全景写真は Canon EOS 6D を、遺物写真は PENTAX K-1 Mark II を用いて撮影した。
5. 本書に使用した遺構の略記号は、SD - 溝、SE - 井戸、SK - 土坑、SX - その他を示す。
6. 遺構実測図は国土調査法第 II 座標系（世界測地系）を基に作成し、図面方位は座標北を示す。なお、平成 28 年に発生した熊本地震に係るパラメータ補正は行っていない。
7. 本調査の略記号は LKM - 031、調査番号は 202209 である。
8. 本調査に関わる遺物・記録類は、全て久留米市埋蔵文化財センターに収蔵・保管されている。
9. 本書の執筆・編集は、廣木が行った。

本文目次

I. はじめに	1
i. 調査に至る経緯	1
ii. 調査・報告書作成に係わる体制	1
II. 位置と環境	2
III. 調査の記録	4
i. 調査の目的と経過	4
ii. 検出遺構	4
iii. 出土遺物	20
IV. 総括	26
報告書抄録	巻末

挿図目次

第 1 図 調査地点と周辺の遺跡分布図 (1/25, 000)	2
第 2 図 延宝八年図 (1680 年)	3
第 3 図 天保年間図 (1830~1844 年)	3
第 4 図 調査地点の位置と周辺地形図 (1/2, 500)	3
第 5 図 久留米城下町遺跡第 31 次調査遺構配置図 (1/100)	5
第 6 図 S D 25 土層図 (1/40)	6
第 7 図 S E 33・50 実測図 (1/40)	7
第 8 図 S K 1・2・5~7・11 実測図 (1/40)	8
第 9 図 S K 14・15・19~22 実測図 (1/40)	10
第 10 図 S K 23・24・26・27・29・30 実測図 (1/40)	12
第 11 図 S K 31・32・34~37 実測図 (1/40)	14
第 12 図 S K 38・40・42~45 実測図 (1/40)	16
第 13 図 S K 46~49・51・52 実測図 (1/40)	18
第 14 図 S X 10 実測図 (1/40)	19

表目次

第 1 表 出土遺物観察表①	21
第 2 表 出土遺物観察表②	22

第 3 表	出土遺物観察表③	23
第 4 表	出土遺物観察表④	24
第 5 表	出土遺物観察表⑤	25

図版目次

図版 1	(1) I 区全景 (北東から)	(3) S K 34 完掘状況 (北西から)
	(2) II 区全景 (北東から)	(4) S K 35 完掘状況 (北東から)
図版 2	(1) II 区西側トレンチ掘削状況 (南西から)	(5) S K 36 完掘状況 (北東から)
	(2) S D 8 掘削状況 (北東から)	(6) S K 37 土層 (北東から)
	(3) S D 25 A - A 間土層 (北西から)	(7) S K 37 完掘状況 (南西から)
	(4) S D 25 B - B 間土層 (北西から)	(8) S K 38 完掘状況 (北から)
	(5) S D 25 C - C 間土層 (北西から)	図版 7
	(6) S D 25 掘削状況 (北西から)	(1) S K 40 完掘状況 (南西から)
	(7) S E 33 土層 (東から)	(2) S K 42 完掘状況 (東から)
	(8) S E 50 土層 (東から)	(3) S K 43 土層 (南東から)
図版 3	(1) S E 50 掘削状況 (東から)	(4) S K 43 完掘状況 (南東から)
	(2) S K 1 完掘状況 (北西から)	(5) S K 44 土層 (南東から)
	(3) S K 2 完掘状況 (北から)	(6) S K 44 完掘状況 (南東から)
	(4) S K 5 完掘状況 (北西から)	(7) S K 45 完掘状況 (北西から)
	(5) S K 6 完掘状況 (西から)	(8) S K 46 完掘状況 (南西から)
	(6) S K 7 完掘状況 (西から)	図版 8
	(7) S K 11 土層 (北西から)	(1) S K 47 土層 (北東から)
	(8) S K 11 完掘状況 (北西から)	(2) S K 47 完掘状況 (東から)
図版 4	(1) S K 14 掘削状況 (北東から)	(3) S K 48 土層 (北東から)
	(2) S K 15 土層 (東から)	(4) S K 49 土層 (北東から)
	(3) S K 19 土層 (北東から)	(5) S K 48・49 完掘状況 (西から)
	(4) S K 19 掘削状況 (南東から)	(6) S K 51 完掘状況 (北東から)
	(5) S K 20 掘削状況 (西から)	(7) S K 52 完掘状況 (北東から)
	(6) S K 21 完掘状況 (東から)	(8) S X 10 土層 (南東から)
	(7) S K 22 掘削状況 (北西から)	図版 9
	(8) S K 23 完掘状況 (北西から)	(1) S X 10 遺物出土状況 (北西から)
図版 5	(1) S K 24 完掘状況 (北から)	(2) S X 10 完掘状況 (北東から)
	(2) S K 26 土層 (北東から)	(3) S X 100 検出状況 (北から)
	(3) S K 26 遺物出土状況 (南東から)	(4) S X 100 土層 (北東から)
	(4) S K 26 遺物出土状況部分拡大 (北東から)	出土遺物①
	(5) S K 27 完掘状況 (北から)	図版 10
	(6) S K 30 完掘状況 (北東から)	出土遺物②
	(7) S K 31 完掘状況 (北西から)	図版 11
	(8) S K 32 土層 (南から)	出土遺物③
図版 6	(1) S K 32 完掘状況 (東から)	図版 12
	(2) S K 34 土層 (北西から)	出土遺物④
		図版 13
		出土遺物⑤
		図版 14
		出土遺物⑥
		図版 15
		出土遺物⑦
		図版 16
		出土遺物⑧
		図版 17
		出土遺物⑨

I. はじめに

i. 調査に至る経緯

本調査は、共同住宅建設に先立つ発掘調査である。令和4年7月20日、土地所有者より久留米市日吉町5番9・10・11・56における「埋蔵文化財包蔵の有無」の照会が提出された。一帯は周知の遺跡である久留米城下町遺跡に含まれ、江戸時代の遺構が展開していることが想定されたため、令和4年7月26日に試掘調査を行った。結果、土坑や18・19世紀代の遺物を検出したため、発掘調査が必要である旨を回答した。その後、協議を重ね、調査費用を原因者負担とすること、発掘調査を令和4年度、報告書作成を令和5年度に実施することで合意に至った。協議結果を受け、令和4年9月2日に株式会社エクストラパートナーから「発掘調査の依頼」が提出され、文化財保護法による諸手続きを済ませた後、令和4年9月13日に依頼者と久留米市は「久留米城下町遺跡第31次調査における埋蔵文化財に関する協定書」および「令和4年度埋蔵文化財発掘調査委託契約書」を取り交わした。調査期間は、令和4年10月6日から令和4年12月15日までである。また、出土品整理・報告書作成作業は令和5年5月1日に「埋蔵文化財発掘調査報告書作成業務委託契約書」を取り交わし、実施した。報告書作成期間は令和5年6月1日から令和6年3月31日までである。

ii. 調査・報告書作成に係わる体制

	令和4年度	令和5年度
調査委託：株式会社エクストラパートナー	代表取締役 原 久則	原 久則
調査主体：久留米市教育委員会	教 育 長：井上 謙介	井上 謙介
調査総括：市民文化部	部 長：竹村 政高	竹村 政高
	次 長：深堀 尚子	古賀 裕二
文化財保護課	課 長：水島 秀雄	井上 英俊
	課長補佐：田中 健二	白木 守
	主 査：小澤 太郎	小澤 太郎
	事務主査：江島 伸彦	江島 伸彦
	調査担当：廣木 誠	
	整理担当：廣木 誠	廣木 誠
	宮崎 彩香	江藤 玲子
	今村 理恵	今村 理恵（～12月）

会計年度任用職員

発掘調査 案納 哲夫、大淵 文子、國武 三歳、原 博文、福田 孝利、堀江 俊文、山田 治代、横山 満浩（令和4年度）

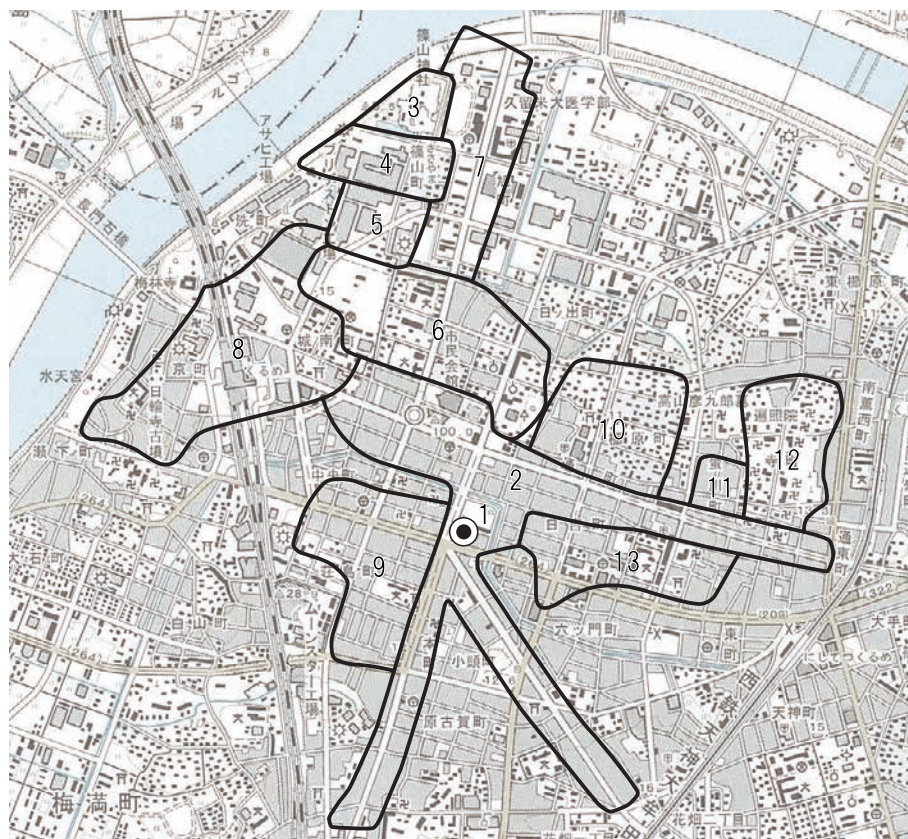
整理作業 井上 千恵美、栴島 かおり、野口 晴香、山口 久美子（令和4年度）
江口 里織、横井 理絵（令和5年度）

II. 位置と環境

久留米市は、九州一の大河筑後川の中流域にあたり、筑紫平野の中央に位置する。古代においては国府や国分寺が置かれ、筑後国の政治・経済・文化の中心地として、また、近世には毛利氏・田中氏の治世を経て有馬氏21万石の城下町として栄えてきた。さらに近代に至っては軍都として、また繊維産業やゴム産業の街として発展し、現在は中核市として県南の中心的都市となっている。

ここに報告する久留米城下町遺跡は、筑後川左岸の高良山から派生する段丘上の末端付近に位置する遺跡で、JR久留米駅付近から西鉄久留米駅までの市街地内に広く展開する。一帯は市街地を東西に横断する「明治通り」を中心として商工業施設やマンションなどが建ち並ぶ地区であるが、この基盤となったのは江戸時代初期に開始された城下町の築造に遡る。

久留米城の築造時期については、『筑後将士軍談』によれば永正年間(1504～1521)に築城され「笹原城」と呼ばれたという。天文年間(1532～1555)になると御井郡司が城郭を構え、天正年間(1573～1592)初年には高良山座主の弟麟圭が城主となる。次いで、豊臣秀吉の九州国割によって小早川秀包が久留米城に入城した。両替町遺跡(第2次調査)では教会に比定される大型建物が検出された。これは当地におけるキリスト教の普及拠点と思われ、普及対象となる人々と彼らが住まう一定規模の街区の存在を想起させるが、詳細は定かではない。関ヶ原合戦後、久留米城は柳川城主田中吉政の支城となり、その次男則政が配された。この頃には城郭の改修や柳川往還などの交通網の整



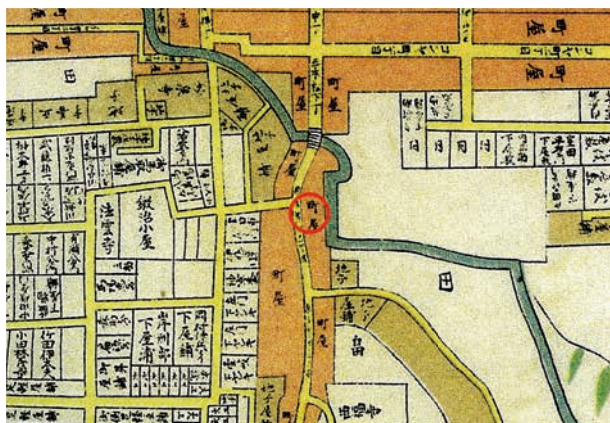
遺跡名

1. 調査地点
2. 久留米城下町遺跡
3. 久留米城本丸跡
4. 久留米城二ノ丸跡
5. 久留米城三ノ丸跡
6. 久留米城外郭遺跡
7. 柳原
8. 京隈侍屋敷遺跡
9. 庄島侍屋敷遺跡
10. 櫛原侍屋敷遺跡
11. 鉄砲小路遺跡
12. 寺町
13. 十間屋敷遺跡

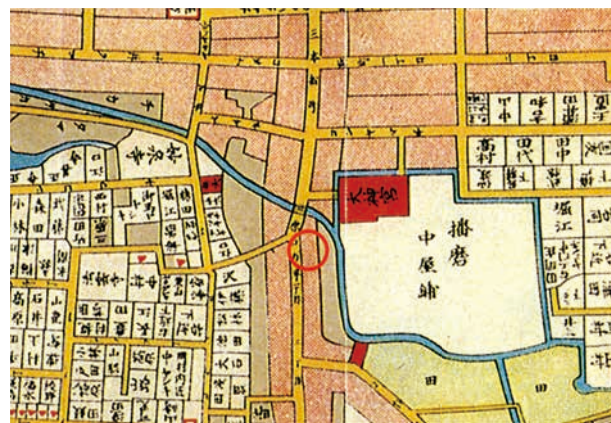
第1図 調査地点と周辺の遺跡分布図 (1/25,000)

備に加え、町屋の建設がなされたことが文献等から窺える。田中家改易後の元和7年(1621)に有馬豊氏が筑後国北半21万石の大名として筑後に入部すると、城郭の拡充や侍屋敷の整備とともに町屋の改変を行い、寛永年間(1624~1644)には基本的な町割りが完成したと考えられている。

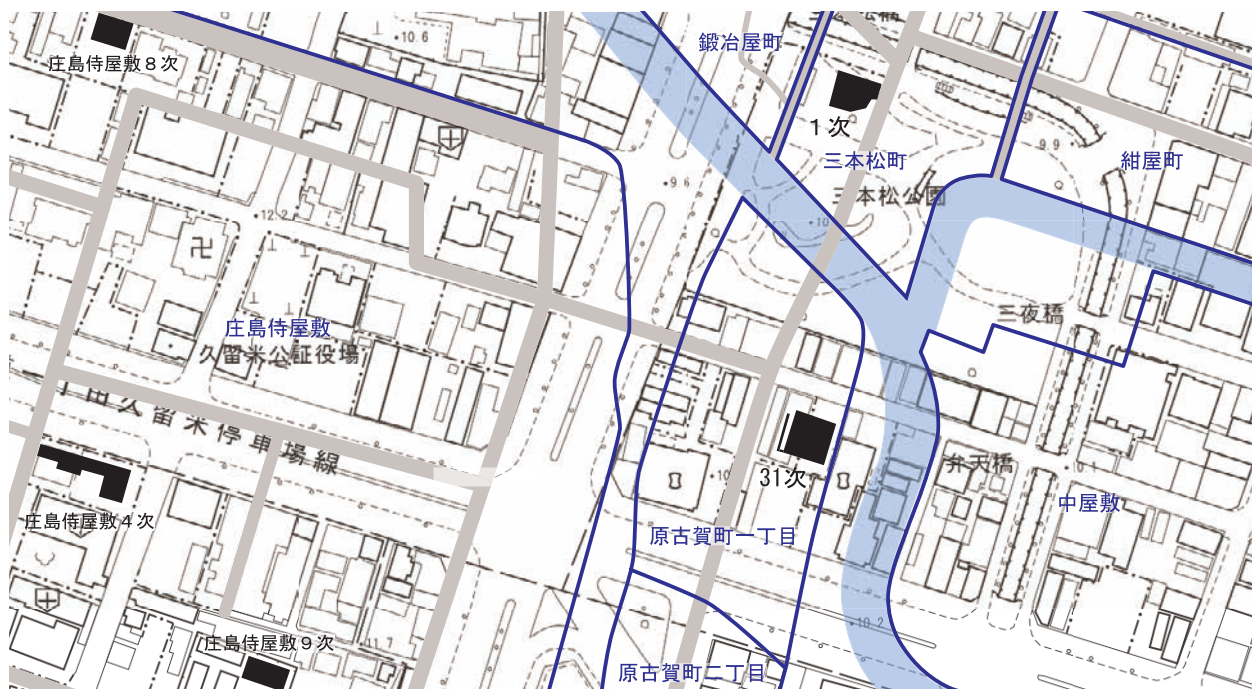
調査地は久留米城外郭の南部に位置し、久留米城下の原古賀町一丁目にあたる。柳川往還沿いの町で、北は池町川を境に三本松町とつながる。西は庄島侍屋敷と接し、東は二丁目で小頭町通りに分岐する。『石原家記』には寛文9年(1669)に当町三丁目より南に暫次家が建った記録があることから、これ以前には当町一丁目は整備されていたものと考えられる。町名は、久留米藩士矢野一貞が著した『柏葉抄録』によると中世の春野長左衛門の屋敷に由来し、『延宝八年久留米市街図』にも「ハルノコカ」と見え、五丁目まで確認できる。その後、度々大火に遭って町入替えや拡充、再編が行われるなかで、駅屋も設置され城下南方の要地であったことが窺える。天保3年(1832)には七丁目から十丁目に再編され、明治9年(1876)には苧扱川町と改称されている。



第2図 延宝八年図(1680年、○は調査地)



第3図 天保年間図(1830~1844年、○は調査地)



第4図 調査地点の位置と周辺地形図(1/2,500)

Ⅲ. 調査の記録

i. 調査の目的と経過

調査地点は久留米城外郭の南側に形成された「下」字状に展開する遺跡の中心付近に位置する。江戸時代の絵図によると、旧池町川の南側隣接地、柳川往還沿いに形成された原古賀一丁目の中央付近にあたり、東側には池町川を挟んで「播磨中屋敷」(天保年間図)などを確認できる。以上のことから、町屋内の遺構の分布状況の把握に主眼を置きつつ、町の東境や旧池町川流路の確認を目的に調査を実施した。

現地調査は、令和4年10月6日に重機によるⅠ区の表土剥ぎから開始し、同日午後には作業員を投入して環境整備を行った。11日より遺構検出をはじめ、掘削・実測作業、写真撮影は随時行い、10月31日にⅠ区の全景写真を撮影した。撮影後Ⅰ区の埋め戻しに取りかかり、11月1日からⅡ区の表土剥ぎを開始した。表土剥ぎ終了後遺構検出を行い、遺構の掘削を進めながら、都度実測・写真撮影を実施した。12月9日、Ⅱ区の全景写真撮影を終えた後、Ⅱ区の埋め戻しとⅢ区の補足調査を並行して行い、15日にⅢ区の埋め戻しおよび機材を撤収し、全ての現地作業を終了した。

ii. 検出遺構

調査区は、廃土置き場等を確保する必要があったことから、東西2つの調査区に分割した。Ⅱ区西側については攪乱の影響が著しく、トレンチの掘削範囲の記録と写真記録を行うに留めた。また、Ⅰ・Ⅱ区間の遺構の残存状況を確認することを意図して、Ⅲ区を設定している。なお、遺構番号については通し番号を付した。

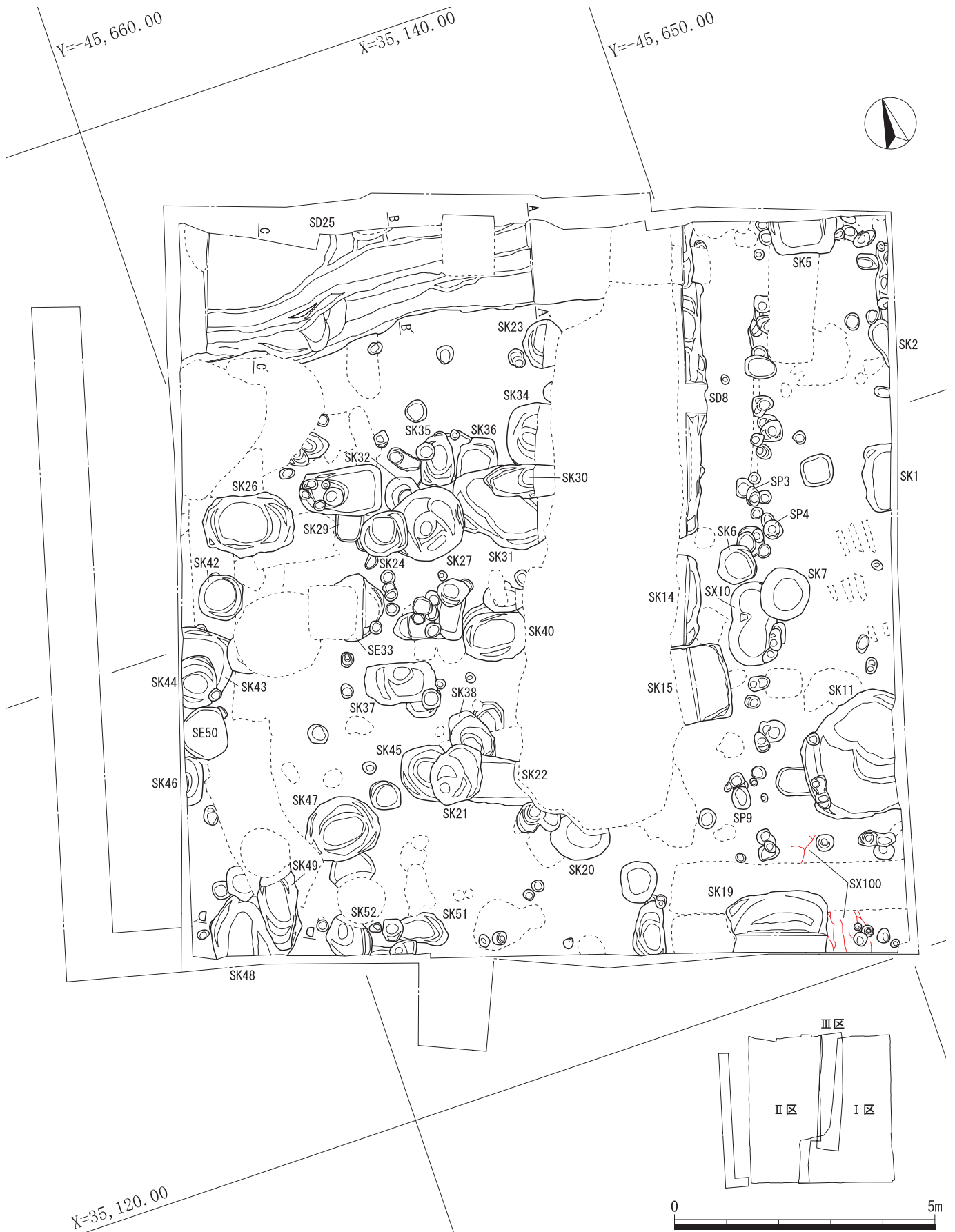
現況は宅地および雑種地であり、周辺地形は調査地を東から北へ迂回するように池町川が流れており、北方の流路に向かって僅かに傾斜している。調査対象地内の標高も南側が10.5m、北側が10.1mであり、0.4mの比高がある。基本層序は、Ⅰ区北東隅の観察では、上位より造成土(25cm)、にぶい褐色土(5cm)、褐灰色土(10cm)、炭化層(戦災層、5cm)、黒灰色土(50cm)が堆積し、遺構検出面である地山に至る。遺構検出面までの深さは約1mで、標高は南側が9.6m、北側が9.2mを測る。

検出した主な遺構は、溝2条、井戸2基、土坑36基、埋甕遺構1基および地割れ痕跡である。当地では近代以降も間断なく土地利用がなされており、特に調査区中央と西側において攪乱の影響が著しいが、Ⅱ区の中央付近を中心に多くの遺構を確認できた。以下、各遺構について詳述する。

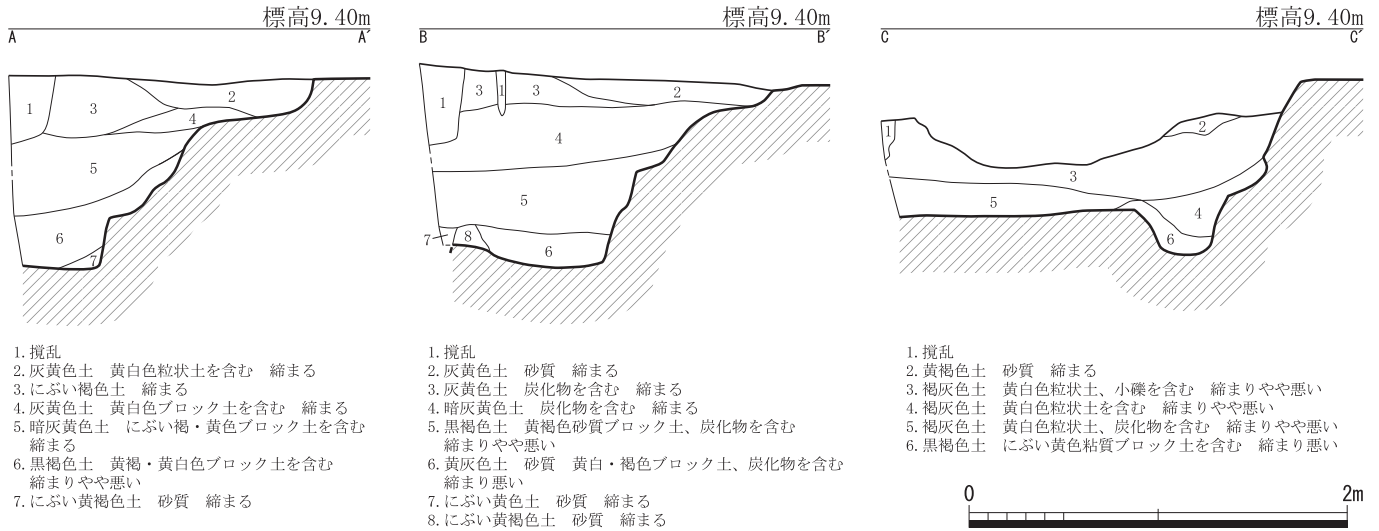
溝

SD8 (第5図, 図版2)

Ⅰ区北西で検出した南北に延びる溝である。西側に大きく攪乱を受け、北側は調査区外に至るため詳細は不明である。検出長6.1m、検出幅0.56mで、深さは最大0.62mを測る。底面は、凹凸が著しいが北方へ比高を減じており、比高15cm程度を測る。埋土は黒灰色土で、炭化物および橙色ブロック土を多く含む。埋土内からは近世陶磁器、瓦質土器、鉄製釘片、銭貨が出土した。



第5図 久留米城下町遺跡第31次調査遺構配置図 (1/100)



第6図 SD25 土層図 (1/40)

SD25 (第6図, 図版2)

II区北側で検出した。I区において本遺構の東側延長部を確認できなかったが、遺構の形状から溝として報告する。攪乱の影響および遺構北側が調査区外に及ぶため全容は不明であるが、略東西方向に蛇行気味に延びるもので、検出長8.3m、検出幅2.3m、最大深さ1.06mを測る。底面は西から東へと緩傾斜を成しており、比高は10cm程度である。断面形は逆台形に近く、底面の南端部が一段深く掘り込まれている。埋土は全体的にブロック土を含み、一部炭化物を有する。東部および中央部がよく締まる土壌であるのに対して、西部は締まりが悪かった。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、貝類片、鉄滓2点などが出土した。

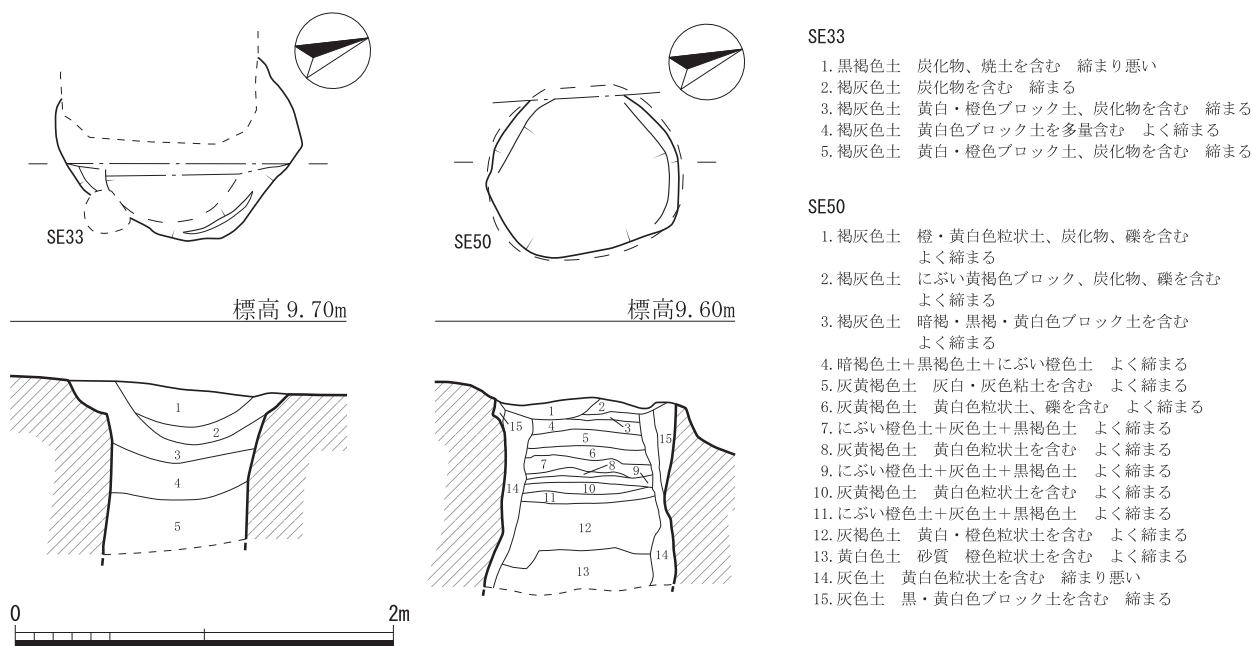
井戸

SE33 (第7図, 図版2)

II区中央で検出した。西側に攪乱を受けるが平面形は円形と推察され、直径1.16mを測る。検出面より0.9mの深さまで掘削したのち、土層観察を行った。第1・2層については遺構が重複していた可能性があるが、第3層より下位は水平堆積に近くブロック土を含む。このことから、本遺構は人為的に埋没し、その過程で壁面の一部が崩落してステップが形成されたものと考えられる。機能時の直径は0.8m程度の規模であろう。埋土内からは近世陶磁器のほか、土師器、丸瓦、鉄製釘が出土した。

SE50 (第7図, 図版2・3)

SE33の南西3mで検出した。一部調査区外に及ぶが、平面形は円形を呈し、直径0.96mを測る。検出面より1mの深さまで掘削したのち、土層観察を行った。結果、壁面沿いに締まりの悪い土壌が認められ、本遺構は井戸枠を有していたものと推察される。また、その内部は水平堆積の様相を呈することから、人為的に廃棄されたと考えられる。井戸枠の範囲を平面で認識できず、また植物遺存体の出土もないため、詳細な構造については不明である。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘、鉄滓が出土した。



- SE33
1. 黒褐色土 炭化物、焼土を含む 縮まり悪い
 2. 褐灰色土 炭化物を含む 縮まる
 3. 褐灰色土 黄白・橙色ブロック土、炭化物を含む 縮まる
 4. 褐灰色土 黄白色ブロック土を多量含む よく縮まる
 5. 褐灰色土 黄白・橙色ブロック土、炭化物を含む 縮まる

- SE50
1. 褐灰色土 橙・黄白色粒状土、炭化物、礫を含む よく縮まる
 2. 褐灰色土 にぶい黄褐色ブロック、炭化物、礫を含む よく縮まる
 3. 褐灰色土 暗褐・黒褐・黄白色ブロック土を含む よく縮まる
 4. 暗褐色土+黒褐色土+にぶい橙色土 よく縮まる
 5. 灰黄褐色土 灰白・灰色粘土を含む よく縮まる
 6. 灰黄褐色土 黄白色粒状土、礫を含む よく縮まる
 7. にぶい橙色土+灰色土+黒褐色土 よく縮まる
 8. 灰黄褐色土 黄白色粒状土を含む よく縮まる
 9. にぶい橙色土+灰色土+黒褐色土 よく縮まる
 10. 灰黄褐色土 黄白色粒状土を含む よく縮まる
 11. にぶい橙色土+灰色土+黒褐色土 よく縮まる
 12. 灰褐色土 黄白・橙色粒状土を含む よく縮まる
 13. 黄白色土 砂質 橙色粒状土を含む よく縮まる
 14. 灰色土 黄白色粒状土を含む 縮まり悪い
 15. 灰色土 黒・黄白色ブロック土を含む 縮まる

第7図 S E33・50 実測図 (1/40)

土坑

SK1 (第8図, 図版3)

I区北東側で検出した。東側が調査区外に及ぶが、平面形は隅丸長方形と思われ、規模は長軸長1.26m、短軸長0.55m以上、深さ0.7mを測る。底面はほぼ水平で、南壁は垂直に、西・北壁は外傾して立ち上がる。埋土は上位が黄灰色土、中・下位が炭化物を多く含む黒灰色土で、縮まりが悪い。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦が出土したが、いずれも小片である。

SK2 (第8図, 図版3)

SK1の北2mで検出した。南側が調査区外に至るが、平面形は長円形と推察され、規模は長軸長0.93m以上、短軸長0.47m以上、深さ0.2mである。底面は水平で、壁面は外傾している。埋土は褐灰色を呈する単層で、埋土内からは近世陶磁器片、土師器、土製品、銭貨、ガラス製品が出土している。

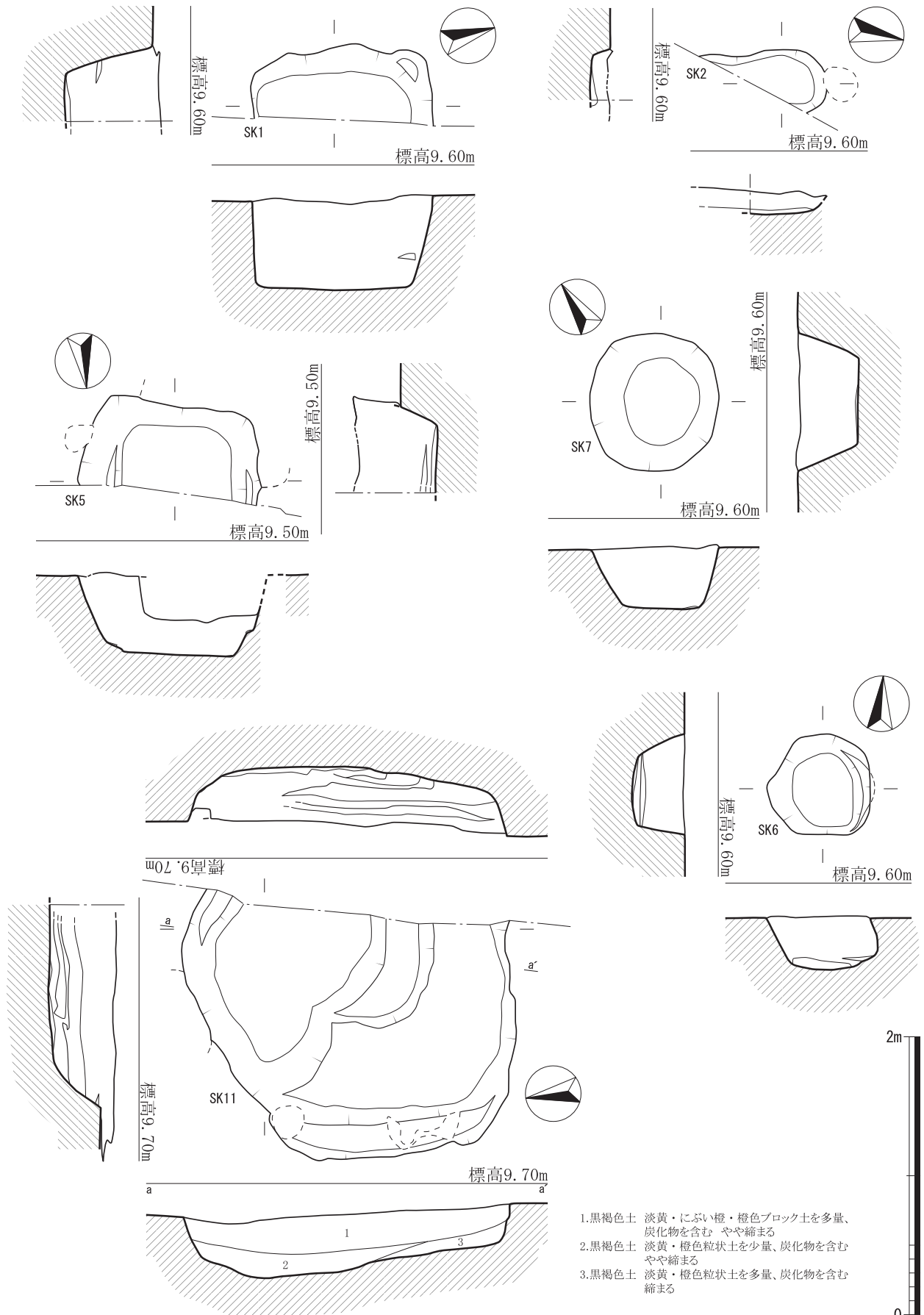
SK5 (第8図, 図版3)

I区北端で検出した。北側が調査区外に延び、南側が攪乱を受ける。平面形は方形あるいは長方形と推察され、検出した規模は長軸長1.33m、短軸長0.69m以上、深さ0.58mである。底面はやや西側に傾斜し、東西に狭長なステップを設け、壁面は外傾して上端に至る。埋土は黒灰色土で、ブロック土と炭化物を含んでおり、よく縮まる。埋土内からは近世陶磁器、土師器、鉄製釘が出土した。

SK6 (第8図, 図版3)

I区中央で検出した平面形が楕円を呈する土坑である。規模は直径0.7~0.8m、深さ0.38mを測る。底面は凹レンズ状で、壁面は東側が袋状を呈し、その他は外傾して立ち上がる。埋土は炭化物を多く含む黒灰色土で、よく縮まる。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘な

III. 調査の記録



第8図 SK1・2・5～7・11実測図 (1/40)

どが出土した。

SK7 (第8図, 図版3)

SK6の東0.5mで検出した。SX10に後出する。平面形は楕円形を呈し、直径は0.9～1.0m、深さ0.46mである。底面は僅かに南東へ傾斜しており、断面形は逆台形を呈する。埋土は黒灰色で、ブロック土および炭化物を少量含む。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘、鉄片、鉄滓などが出土した。

SK11 (第8図, 図版3)

SK7の南東2.5mで検出した。東側の一部が調査区外に至るが、平面形は楕円形と推察され、規模は直径2.28～2.65m、深さ0.47mである。遺構内の北東側に底面を設け、その北側に一段、南側に三段のステップを有する。埋土はブロック土の多寡で3層に識別でき、いずれも黒褐色を基調とする土壌で炭化物を含む。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘、石製品、土製品が出土した。

SK14 (第9図, 図版4)

I区中央の西側で検出した。西側に攪乱を受けるが、平面形は隅丸長方形と推察される。規模は長軸長1.77m、短軸長0.53m以上、深さ0.94mである。底面は丸味をもち、南北壁面は内湾気味に、東壁面は外傾して立ち上がる。埋土はよく締まる黒灰色土で、ブロック土を多く含む。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦が出土した。

SK15 (第9図, 図版4)

SK14の南側で検出した。西側に攪乱を受けている。平面形は長方形と思われ、規模は長軸長1.45m、短軸長0.99m以上、深さ0.9mを測る。底面はほぼ水平で、壁面は東側が垂直に立ち上がるのに対し、南・北側は袋状を呈する。埋土は褐灰色を基調とする土壌で、下層ほどブロック土を多く含む。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、金属製品、魚骨片およびシジミ・アサリ・ハマグリ類の貝類片が出土した。

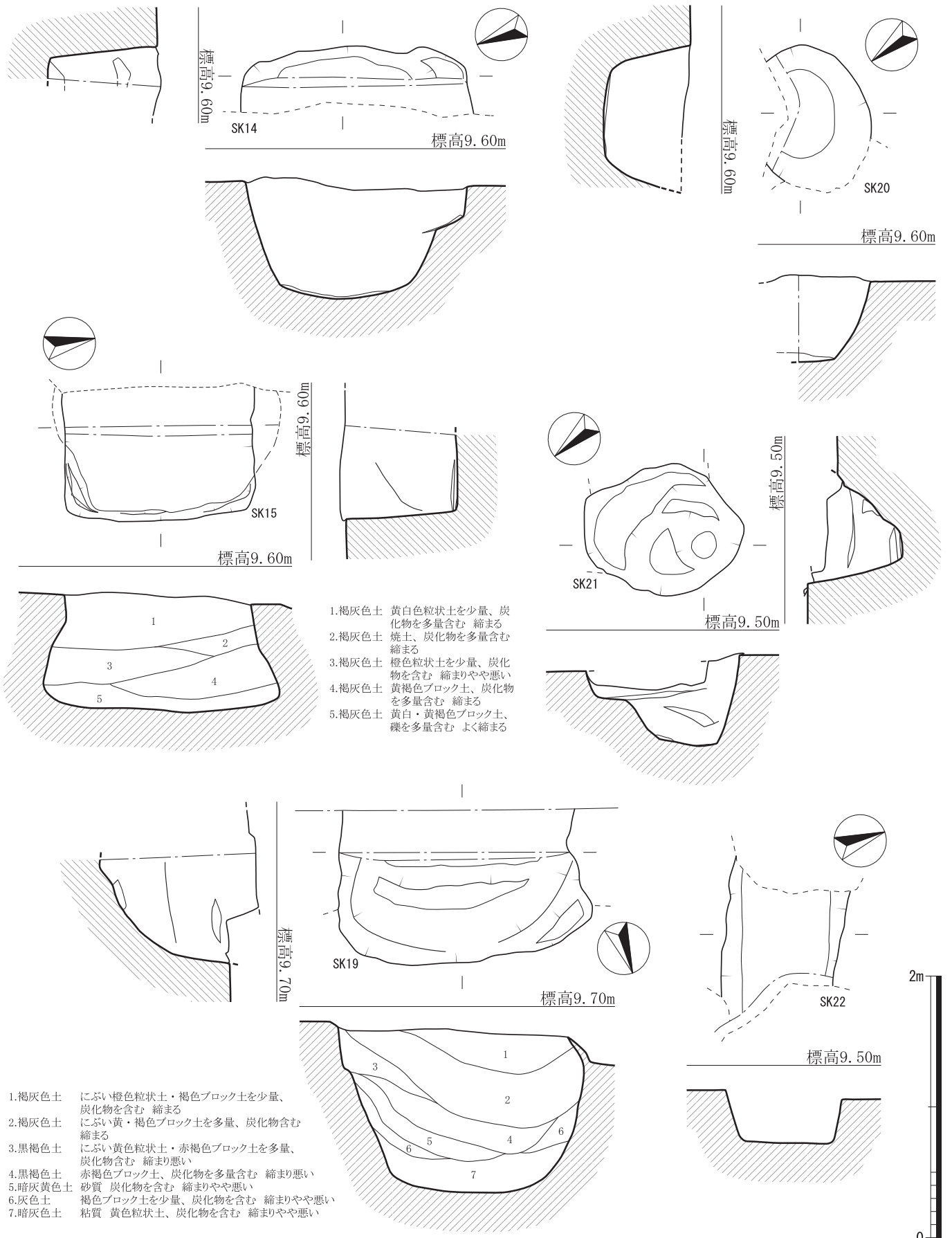
SK19 (第9図, 図版4)

SK15の南3.5mで検出した。南側が調査区外に延び、北側が攪乱を受ける。平面形は隅丸方形もしくは隅丸長方形と推察され、長軸長1.95m、短軸長1.18m以上、深さ1.3mである。断面形はU字状に近く、埋土は全体的にブロック土を含み、東方から流入した状況を看取できる。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘、煙管雁首、銭貨などが出土した。

SK20 (第9図, 図版4)

SK19の北西3mで検出した。北・西側に攪乱を受ける。平面形は卵形で、規模は長軸長1.15m以上、短軸長0.88m以上、深さ0.66mを測る。底面は凹レンズ状で、西・南壁は内湾気味に、東壁は外傾して立ち上がり上端に至る。埋土は黒灰色でブロック土を含む。また、締まりの悪い土壌であり炭化物を含む。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦、金属製品が出土したが、いずれも小片である。

III. 調査の記録



第9図 SK14・15・19~22 実測図 (1/40)

SK21 (第9図, 図版4)

SK20の北西2mで検出した。SK22・38・45に後出する。平面形は卵形を呈し、長軸長1.22m、短軸長1.01m、深さ0.71mである。遺構内の南西隅に小さな底面を有し、その北東側に三段のステップを設ける。埋土は褐灰色土の単層で、埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦が出土した。

SK22 (第9図, 図版4)

SK21と重複して検出した土坑である。SK21に先行し、SK38に後出する。また、東側に攪乱を受けるため全容は不明であるが、平面形は長方形であろう。規模は長軸長1.25m以上、短軸長0.92m、深さ0.4mを測る。底面は北へ僅かに傾斜し、断面形は短軸で逆台形である。埋土は黒灰色を呈する土壌で、埋土内からは近世陶器1点、土師器5点、瓦3点が出土したが、時期を特定できる遺物はない。

SK23 (第10図, 図版4)

II区北東で検出した。東側に攪乱を受ける。平面形は長円形を呈し、長軸長0.95m、短軸長0.65m、深さ0.19mである。底面は凹レンズ状を呈し、南壁はステップを経て緩やかに立ち上がるのに対して、西壁および北壁は内湾気味に立ち上がる。埋土は褐灰色土の単層で、ブロック土と炭化物を少量含んでいた。埋土内からは近世磁器5点、土師器1点、銭貨片と推察される金属製品1点が出土したのみである。

SK24 (第10図, 図版5)

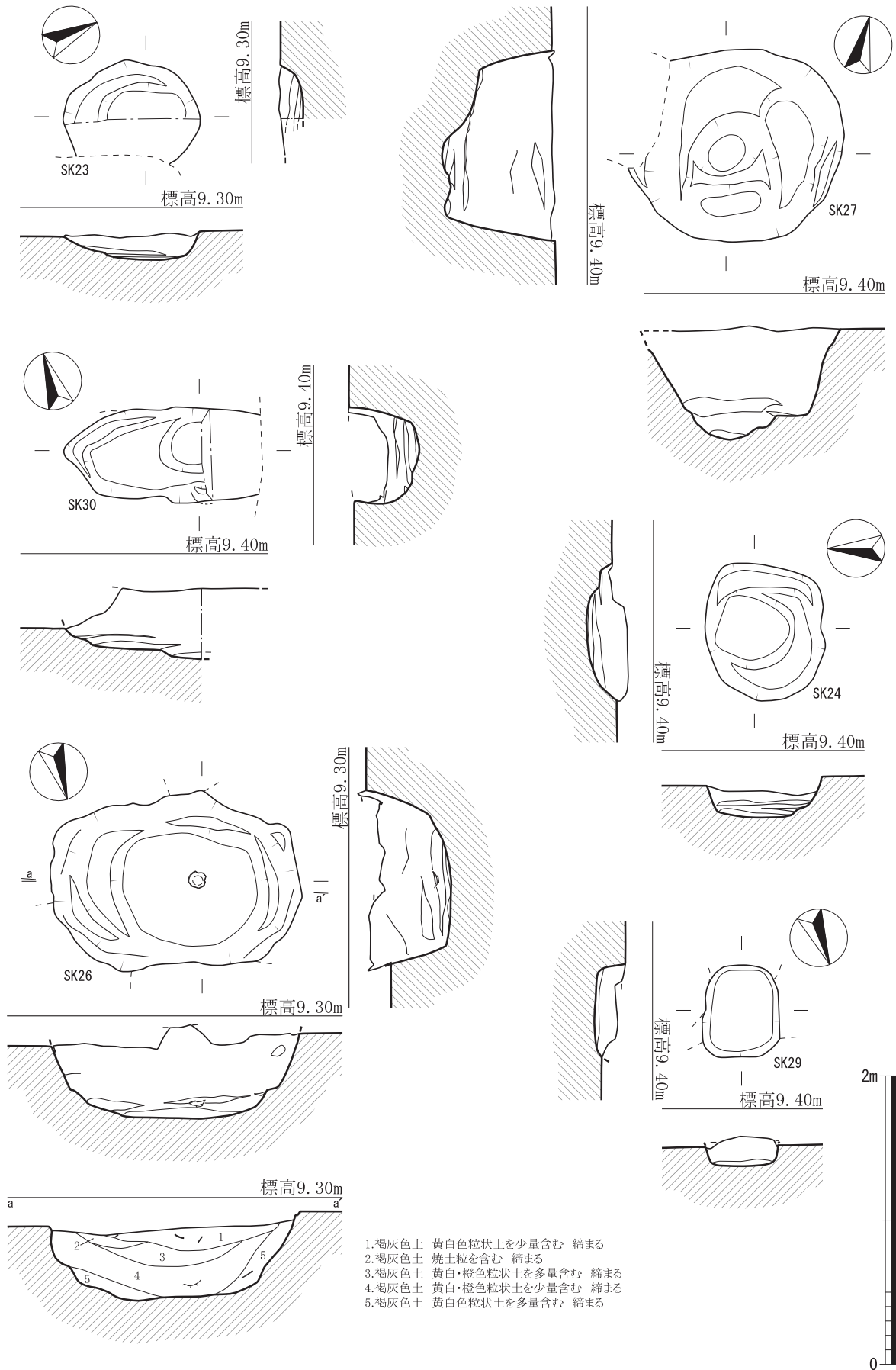
II区中央のやや北側で検出した。SK27・29に後出する。平面形は楕円形で、直径0.8～1.0m、深さ0.29mを測る。底面は凹レンズ状を呈し、底面の南側に一段、西側に一段狭長なステップを有する。壁面は外傾して立ち上がり上端に至る。埋土は締まりが悪い褐灰色土の単層で、埋土内からは近世陶磁器5点、土師器3点が出土したが、いずれも小片であった。

SK26 (第10図, 図版5)

SK24の西1.5mで検出した。四方に攪乱を受けている影響で上端が乱れる。平面形は小判形を呈しており、規模は長軸長1.72m、短軸長1.19m、深さ0.64mである。底面はフラットで、底面から30cm程度上位の間に狭長なステップが複数認められ、壁面は外傾して立ち上がっている。埋土は褐灰色を基調とする土壌で、全体的によく締まり、3cm大の礫を多く含む。包含される黄白色土の多寡により5層に識別され、壁面崩落後に廃棄されたものと推察される。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦、金属製品が出土した。

SK27 (第10図, 図版5)

SK24の東で検出した。SK24に先行し、SK31・32に後出する。平面形は楕円形で、直径1.35～1.50m、深さ0.78mを測る。底部は遺構中央と南側の2か所が凹んでおり、その周囲に複数のステップを有する。南北壁面に対して東西壁面は大きく外傾して立ち上がる。埋土は、ブロック土を含む褐灰色で締まりが悪い。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、棧瓦、鉄製釘、鉄滓、軽石のほか、ガラス片と思われる小片が出土した。



第10図 SK23・24・26・27・29・30 実測図 (1/40)

SK 29 (第10図)

SK24の西で検出した。SK24に先行する。平面形は隅丸長方形で、長軸長0.63m、短軸長0.53m、深さ0.2mである。底面は凹レンズ状を呈し、壁面は垂直に立ち上がる。埋土は褐灰色土の単層で、埋土内からは近世陶磁器3点、土師器4点、簪片1点、煙管吸口3点が出土したが、時期を特定できる遺物はない。

SK 30 (第10図, 図版5)

SK29の東3mで検出した。遺構検出後、SK31と同一遺構と判断し遺構の掘り下げを行ったが、土層観察でSK31に先行することが判明した。また、SK34に後出する。東側に攪乱を受けるが平面形は長円形と推察され、規模は長軸長1.37m以上、短軸長0.67m、深さ0.49mを測る。底面の西側には二段のステップが認められ、南壁面は袋状を呈している。埋土は黒灰色で、焼土および炭化物を含み、締まりが悪い。埋土内からは近世陶磁器、土師器が出土した。

SK 31 (第11図, 図版5)

SK30の南西で検出した。SK27・30に先行し、SK36に後出する。また、東側に攪乱を受けている。平面形は不整形と推察され、規模は長軸長1.96m以上、短軸長1.40m以上、深さ0.25mである。底面はほぼ水平で、その南西側に狭長なステップを有する。北東側にもステップが認められるが、攪乱等の影響により詳細は不明である。埋土は黒灰色を呈し、よく締まる。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦などが出土した。

SK 32 (第11図, 図版5・6)

SK31の西1mで検出した。SK27に先行する。平面形は円形と推察され、規模は直径0.7m、深さ0.58mを測る。南東側に円形の底面を設け、その北西側に三日月状のステップを有する。断面形はU字状に近い。埋土は、上位に褐灰色を基調とする土壌が、最下層には地山に似る黄灰色砂質土が堆積する。埋土内から遺物は出土しなかった。

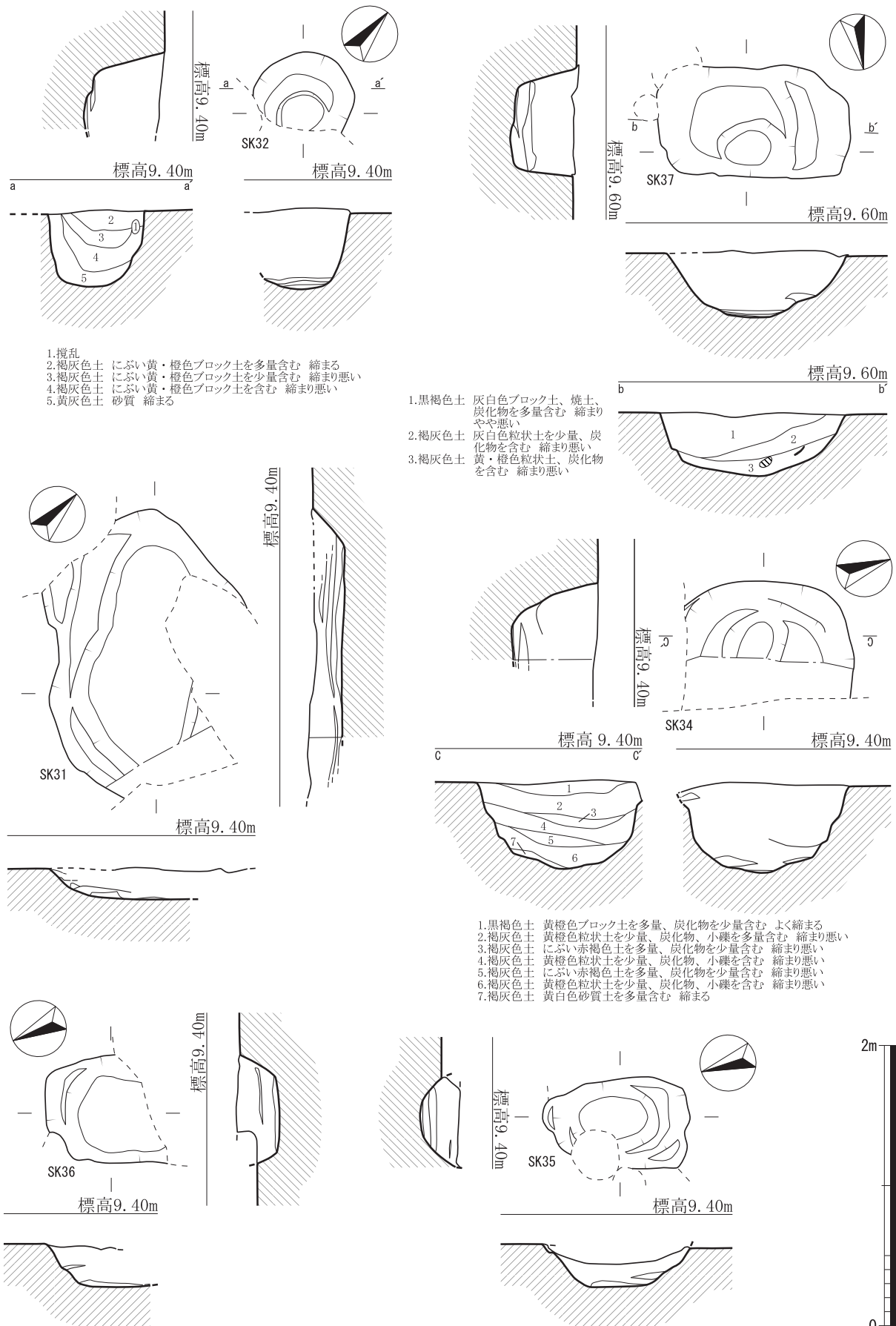
SK 34 (第11図, 図版6)

SK30の北東に重複し、これに先行する。攪乱の影響により平面形は不明であるが、規模は長軸長1.19m、短軸長0.89m、深さ0.65mである。底面は平面規模に比して小さく、長円形を呈するものと推察される。底面の南側には狭長なステップを、北側には幅広のステップを有する。埋土は褐灰色を基調とする土壌であるが、最上位に黒褐色土が確認される。下位から中位は南から流入した様相を呈し、中位より上位はレンズ状に堆積する。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘、鉄滓が出土した。

SK 35 (第11図, 図版6)

SK34の西1.5mで検出した。平面形は不整形を呈し、規模は長軸長1.05m、短軸長0.66m、深さ0.3mである。底面は長軸方位が水平であるのに対して、短軸方位が丸みを帯びる。壁面は、内湾気味に立ち上がり上端に至る。埋土は褐灰色で、ブロック土および炭化物を含み、よく締まる。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、金属製品、土製品が出土した。

III. 調査の記録



第11図 SK31・32・34~37実測図 (1/40)

SK36 (第11図, 図版6)

SK35の東で検出した。SK31に先行する。平面形は隅丸長方形と推察され、規模は長軸長0.87m以上、短軸長0.77m、深さ0.31mを測る。底面北側に狭小なステップを有し、断面形は逆台形に近似する。埋土は褐灰色を呈する土壌で、ブロック土を多く含み、よく締まる。埋土内からは近世陶器、土師器、煙管雁首が出土した。

SK37 (第11図, 図版6)

II区中央で検出した。平面形は隅丸長方形を呈し、規模は長軸長1.37m、短軸長0.8m、深さ0.46mを測る。遺構内中央北側に卵形の小さな底面を設け、その南側に幅広の、西側に狭小なステップを有する。東西断面形はすり鉢状であるのに対して、南北断面は逆台形を呈する。埋土は3層からなり、西方から埋没した状況を看取できる。いずれも締まりは悪く、上層は多量の炭化物・焼土が認められた。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘が出土した。

SK38 (第12図, 図版6)

SK37の南東0.5mで検出した。SK21・22に先行する。平面形は卵形と推察され、規模は長軸長1.14m以上、短軸長0.76m以上、深さ0.95mを測る。底面は西方が僅かに窪み、東方に弓状のステップを形成している。断面形はU字状に近く、埋土はよく締まる褐灰色土である。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘が出土した。

SK40 (第12図, 図版7)

SK38の北東1.5mで検出した。東側に攪乱を受けるが平面形は小判形で、規模は長軸長1.21m以上、短軸長0.94m、深さ0.33mである。底面の東を除く三方にステップを有し、壁面は北側が垂直に、その他が緩やかに立ち上がる。底面の断面形は長軸方向が凸状、短軸が凹レンズ状を呈する。埋土は灰黄褐色土の単層で、よく締まる。埋土内からは小袋半袋程度の近世陶磁器、土師器、瓦、銅片などが出土した。

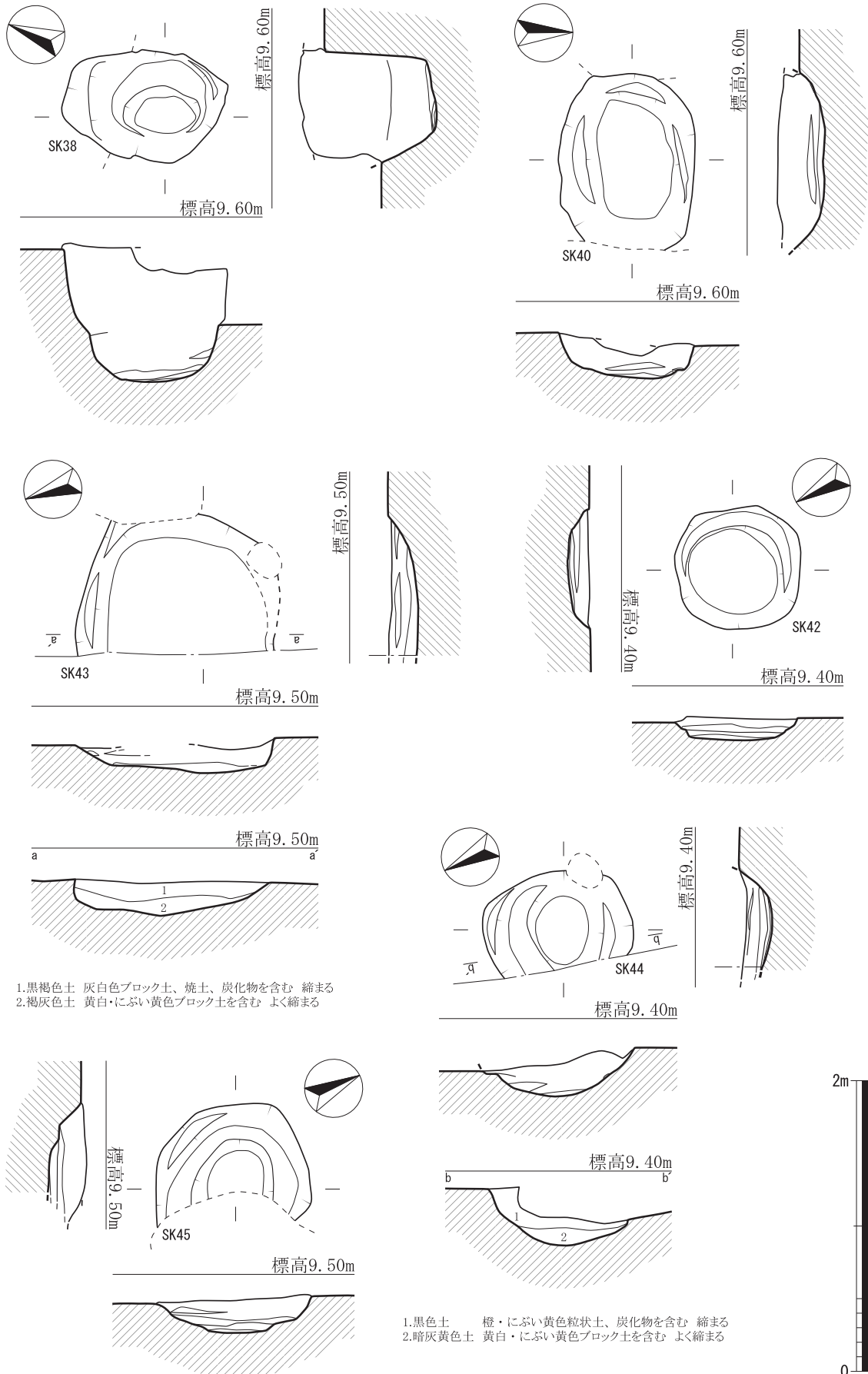
SK42 (第12図, 図版7)

II区中央西側で検出した。平面形は楕円形を呈し、直径0.82～0.92m、深さ0.16mを測る。底面南東側には三日月状の狭長なステップを有する。底面は凹レンズ状で、壁面は緩やかに立ち上がり、上端に至る。埋土は褐灰色の単層で、締まりが悪い。ブロック土が多く含まれる一方、炭化物が少量認められた。埋土内からは近世陶磁器片7点、土師器片1点が出土したのみである。

SK43 (第12図, 図版7)

SK42の南西0.5mで検出した。SK44に後出する。検出当初はSK44と同一遺構と認識していたが、土層観察の結果、SK44との重複関係が認められた。本遺構は、西側が調査区外に至るため平面形は不明であるが、隅丸方形もしくは隅丸長方形と推察される。規模は長軸長1.37m、短軸長0.97m以上、深さ0.24mである。底面は幅広で、その断面は凹レンズ状を呈し、北壁沿いにステップを有する。埋土は上下2層からなり、上層は焼土および炭化物、下層はブロック土を多く含む。埋土内からは近世陶磁器、土製品、銭貨が出土した。

III. 調査の記録



第 12 図 S K38・40・42～45 実測図 (1/40)

SK44 (第12図, 図版7)

SK43の南西に重複し、これに先行する。西側の一部が調査区外に及ぶが平面形は卵形と思われる。規模は長軸長1.04m、短軸長0.67m、深さ0.34mを測る。底面北東側に二段、南西側に一段のステップを設ける。底面の断面形は凹レンズ状で、壁面は緩やかに立ち上がっている。埋土は黒褐色を呈する上層と暗灰黄色の下層からなり、後者はブロック土を多く含む。埋土内からは近世陶磁器、瓦質土器が出土した。

SK45 (第12図, 図版7)

SK44の南東4mで検出した。SK21に先行する。平面形は楕円形と推察され、直径1.05～1.10m、深さ0.26mである。底面の5cm程上位に狭長なステップがめぐり、西側にもう一段ステップが認められる。断面形は二段掘りの様相を呈し、底面中央部が僅かに窪む。埋土は褐灰色を呈する土壌で、ブロック土および炭化物を含み、よく締まる。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦、鉄製釘、鉄滓など大袋の半袋分が出土した。

SK46 (第13図, 図版7)

SK44の南西1mで検出した。西側が調査区外に至るため平面形は不明である。規模は長軸長0.94m、短軸長0.33m以上、深さ0.45mを測る。底面は二段掘りのような形状を呈し、中央付近が5cm程浅く掘り込まれる。壁面は外傾し、北壁のみ垂直に近い。埋土は褐灰色を呈し、炭化物を少量含む。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘が出土したが、小袋1袋に満たない。

SK47 (第13図, 図版8)

SK46の南東2.5mで検出した。西側の一部に攪乱を受ける。平面形は小判形と考えられ、規模は長軸長1.37m以上、短軸長1.19m、深さ0.41mである。底面の平面形は長円形を呈し、その周囲に複数のステップが認められる。断面形は底面が凹レンズ状をなし、各ステップで小さな段を形成しつつ立ち上がり、上端に至る。埋土は上位の暗褐色土と下位の褐灰色土からなり、ブロック土や炭化物等の多寡により細分できる。埋土内からは近世陶磁器片22点および土師器片8点が出土している。

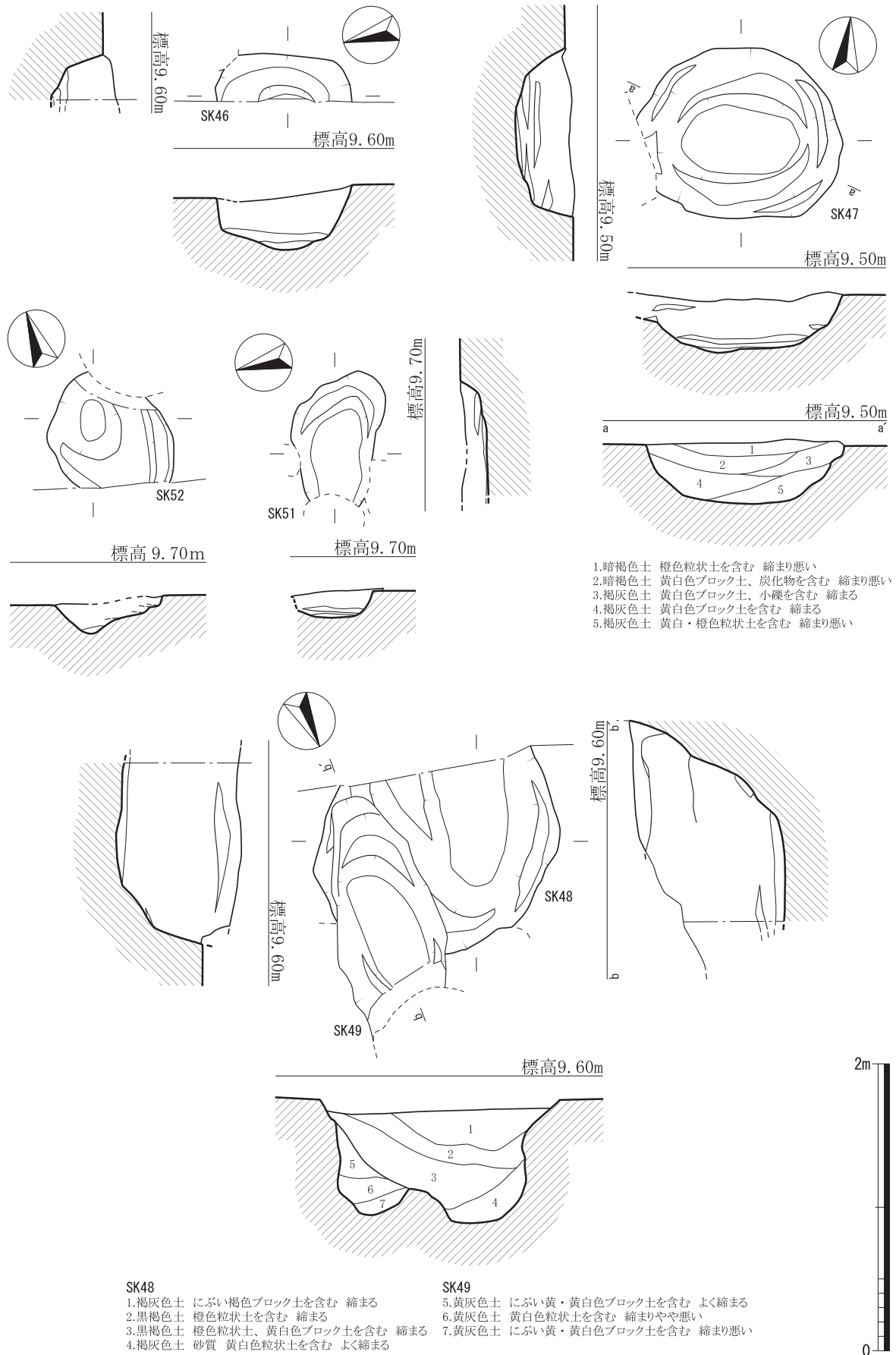
SK48 (第13図, 図版8)

SK47の西1.5mで検出した。南側が調査区外に及び、土層観察の結果、SK49に後出することが判明している。平面形は楕円形と推察され、規模は直径1.55～1.80m、深さ0.88mを測る。遺構内西側に底面を有し、西壁はやや袋状に、東壁は複数のステップを経て緩やかに立ち上がる。また、北壁は外傾気味である。埋土は褐灰色土と黒褐色土が観察され、全体的に締まった土壌である。底面付近が埋没したのち、東側から流入した状況を看取できる。埋土内からは近世陶磁器、土師器、瓦質土器、瓦、鉄製釘が出土した。

SK49 (第13図, 図版8)

SK48と重複し、これに先行する。北側に攪乱を受けており、また、SK48の下位で検出したこ

III. 調査の記録



第 13 図 S K46～49・51・52 実測図 (1/40)

とから平面形は定かではないが、長円形と推察する。規模は長軸長1.64m以上、短軸長0.75m、深さ0.9mである。東西断面形はU字状をなし、南壁は傾斜が緩い。埋土は水平堆積に近い様相を呈し、下層にいくに従い締まりが悪くなる。埋土内からは少量ではあるが近世陶磁器片12点、土師器片2点、鉄製釘が出土した。

SK51 (第13図, 図版8)

SK49の南東2mで検出した不整形の土坑である。規模は長軸長0.9m以上、短軸長0.64m、深さ0.2mを測る。底面は中心付近がやや低く、その東側に狭長なステップを確認できた。埋土は褐灰色土の単層で、締まった土壌であった。埋土内からは近世磁器4点が出土したのみである。

SK52 (第13図, 図版8)

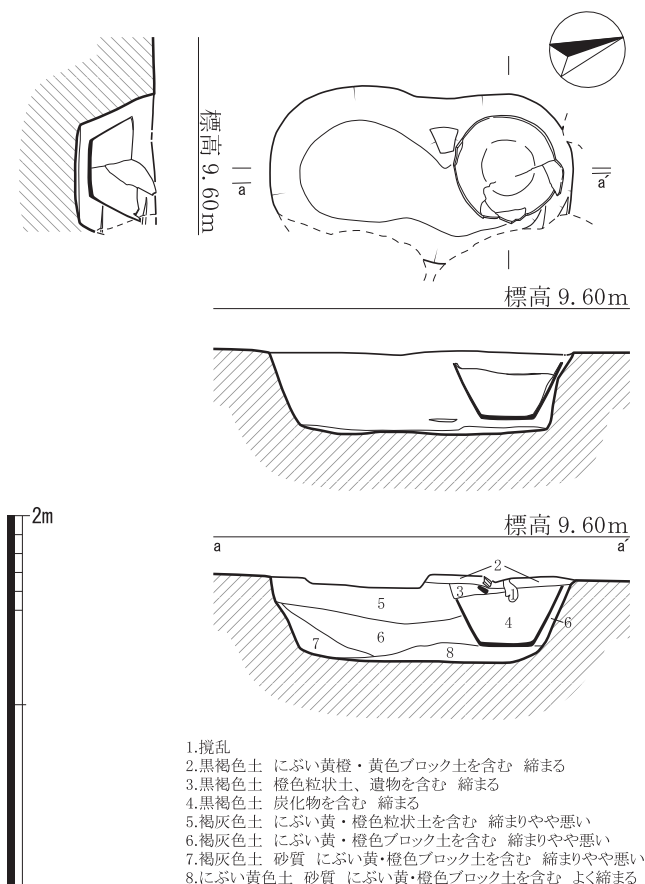
SK51の西0.5mで検出した。南側が調査区外に至るが、平面形は卵形と推察される。規模は長軸長0.93m以上、短軸長0.8m、深さ0.3mである。遺構内の北西側に小さな底面を有し、南東側に幅広のステップを一段、この上位に狭長なステップを一段設ける。底面付近の断面形はV字状を呈し、東側はステップの影響で階段状をなす。埋土はブロック土を含む褐灰色土で、埋土内からは近世陶磁器片6点が出土している。

その他

SX10 (第14図, 図版8・9)

I区中央付近で検出した埋甕遺構である。SK7に先行する。平面形は長円形を呈し、規模は長軸長1.60m、短軸長0.87m、深さ0.45mを測る。底面の平面形は不整形で、その中央西側付近の8cm程上位に台形状のステップが認められる。断面形は逆台形に近く、短軸方向の底面は凹レンズ状を呈し、長軸方向の底面は若干凹凸が認められた。

遺構内北側では、陶器の大甕が出土した。土層観察から、土坑を掘削したのち、坑内北側に砂質土を含む土壌をもってしっかりと整地したうえで大甕を正立させたものと考えられる。その後、大甕の周辺に土壌を充填し安定させたのであろう。上部構造については不明で、南東隅のピットも本遺構に伴うものではない。本遺構からはこの大甕のほか、近世陶磁器片9点、サナ片2点、銭貨1点が出土した。このうち甕内部の第4層からは、陶磁



第14図 SX10 実測図 (1/40)

器片3点とサナ片1点が出土したのみである。

地割れ痕跡

SX100 (第5図, 図版9)

I区南東隅で検出した地割れ痕跡である。SK19東側からSK11南西付近で確認し、概ね南北方向に約2.5m延びる。断割り調査は行っていないが、攪乱等の壁面で観察した深さは0.2mに満たず、灰色砂質土が充填していた。重複関係にある攪乱やSK19などの遺構すべてに先行することから、18世紀以前に比定される。

iii. 出土遺物

本調査出土遺物の大半は瓦と近世陶磁器で、次いで土師器の順となる。瓦については現地調査段階で選別の上、軒瓦のみを採集した。また、近世陶磁器や土師器についても、大量に遺物が出土した遺構については、文様や器形に特徴のある器種、時期を押えられる遺物などの選別を行ったうえで、一部を持ち帰った。その際には大まかな組成や傾向について、気付いた点をメモとして記録したのみである。従って、出土遺物全体の組成を検討するなどの追認作業は不可能であることをお断りしておく。

選別して取り上げた遺物はパンコンテナー8箱であるが、本来は30箱相当の遺物が出土している。瓦については前述のとおり大半を現地調査段階で選別しているため、持ち帰った遺物では近世陶磁器が最も多く、土師器がこれに次ぐ。この他には土鈴や人形などの土製品、刀子や銭貨といった金属製品ならびに簪・瓶のガラス製品が主な遺物として挙げられる。詳細については遺物観察表と写真図版を参照されたい。なお、遺物観察表の凡例は下記のとおりである。

【遺物観察表 凡例】

遺物番号と写真図版の遺物番号は同一である。

口径(長)・底径(幅)・器高(厚)の単位はcmである。()内の数値は現存値を、[]内の数値は復元値を示す。

色調は『新版標準土色帖』(日本色研事業株式会社 1997年版)による。

胎土は0.5mm未満を微砂粒、1mm未満を細砂粒、2mm未満を粗砂粒、5mm未満を細礫、5mm以上を礫とした。

登録番号は、久留米市市民文化財保護課が定める出土遺物の登録番号である。

(例) 202209 - 000001
調査番号 登録番号

第1表 出土遺物観察表①

遺物番号	出土遺構	種別	器種	法量			染付釉薬	装飾・調整			底面 高台内 印銘等	特徴	胎土	年代 備考	登録 番号
				口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)		外面	内面	見込み					
1 図版9	SD8	磁器	碗	-	-	(2.8)	染付		文様有				灰白 精良		20209 000030
2 図版9	SD8	磁器	碗	-	4.2	(2.0)	染付	圏線				宣明年製	灰白 精良	18C後～	20209 000032
3 図版9	SD8	磁器	鉢	[21.4]	-	(4.7)	染付	草	圏線	縦帯か			白 精良		20209 000031
4 図版9	SD25	磁器	碗	-	4.8	(3.8)	青花	蔓草 圏線	圏線	文様有	砂付着		白 精良	中国	20209 000059
5 図版9	SD25	磁器	碗	-	3.9	(5.2)	色絵	網・花 圏線			壺付露胎	二次焼成	白 精良	18C	20209 000050
6 図版9	SD25	磁器	皿	-	[7.6]	1.9	染付	雲 圏線	文様有	壺	目録1ヶ所 壺付露胎		白 精良	19Cか	20209 000097
7 図版9	SD25	磁器	皿	-	-	2.0	染付	圏線	文様有	文様有	壺付露胎 砂付着		白 精良		20209 000094
8 図版9	SD25	磁器	皿	[14.6]	[9.4]	2.7	色絵	草花 圏線	草花	草花	壺付露胎		白 精良	19C	20209 000098
9 図版9	SD25	陶器	碗	[10.4]	4.4	7.1	透明釉				壺付露胎	御器手	淡黄 精良	18C	20209 000095
10 図版9	SD25	陶器	小碗	7.8	4.1	3.6	透明釉	下部露胎			碁筋底 露胎		淡黄 精良		20209 000096
11 図版9	SD25	陶器	皿	[12.0]	4.2	2.8	灰釉	下部露胎		胎土目4ヶ所	兜巾 露胎	煤付着	灰褐 精良	1610～1650	20209 000099
12 図版9	SD25	陶器	皿	[12.4]	3.9～4.0	3.4	灰釉			砂目3ヶ所	兜巾		黄褐 精良		20209 000091
13 図版9	SD25	陶器	皿	[13.3]	4.4	3.8	灰釉	下部露胎		砂目	兜巾・露胎 十(墨書)	溝縁口縁	浅黄 精良	1610～1650	20209 000100
14 図版9	SD25	陶器	瓶	-	11.0～ 11.5	(9.6)	銅緑釉	刷毛目			壺付露胎		灰 細砂粒(長石)	武雄系	20209 000093
15 図版10	SD25	陶器	播鉢	-	-	(6.3)	褐釉		播目(12本)			口縁部施釉	黄灰 精良		20209 000092
16 図版10	SE33	磁器	碗	-	-	(1.4)	染付	文様有		圏線 折枝		宣明年製	灰白 精良	18C後	20209 000155
17 図版10	SE50	磁器	碗	-	-	(3.1)	染付	雨降					白 精良	18C初	20209 000204
18 図版10	SE50	陶器	播鉢	[31.6]	[9.4]	13.4	褐釉		播目 (9本)	播目	胎土目2ヶ所 糸切り・平底	口縁部施釉	灰褐 細砂粒		20209 000205
19 図版10	SK2	磁器	碗	[8.8]	[4.2]	4.2	染付	短冊・蝶・草花		文様有			白 精良	1820～1850	20209 000061
20 図版10	SK2	磁器	碗	[7.0]	[3.2]	5.1	染付	水車	四方帯	圏線 五弁花	砂付着	筒型碗 コンニャク印判	灰白 精良	1770～1780	20209 000062
21 図版10	SK2	磁器	皿	[12.8]	[7.2]	3.4	染付		草	蛇目袖剥ぎ	壺付露胎	型打ち・輪花・口紅	白 精良		20209 000063
22 図版10	SK2	磁器	皿	[23.0～ 23.8]	[14.2]	4.9～5.2	染付		花卉		目録3ヶ所 壺付露胎	輪花・口紅・貫入	灰白 精良		20209 000064
23 図版10	SK2	磁器	鉢	[15.7]	[5.4]	8.2	染付	三階松 圏線		圏線 五弁花		コンニャク印判	灰白 精良	17C末	20209 000065
24 図版10	SK2	陶器	植木鉢	[17.2]	[8.0]	11.0	鉄釉 灰釉	一部露胎	一部露胎		露胎	焼成後外面から穿 孔・焼成前指跡有	褐灰 細砂粒		20209 000068
25 図版10	SK2	陶器	德利	[3.4]	-	(15.7)	褐釉	刷毛目・三本松 (鉄絵)・下部露胎					にふい橙 細砂粒	胴部径:16.8	20209 000067
26 図版10	SK2	陶器	柄杓	8.4	4.4	5.7	灰釉	下部露胎			露胎		灰 精良		20209 000066
27 図版10	SK2	土師器	焙烙	[44.0]	-	(6.6)		回転ナデ	回転ナデ 刷毛目			玉縁口縁 二次焼成	細砂粒(雲母・長石)		20209 000069
28 図版10	SK5	磁器	碗	10.0	3.8	5.1	染付	梵字 圏線	圏線	圏線 寿			灰白 精良		20209 000026
29 図版10	SK5	磁器	碗	10.0	-	(4.3)	染付	雨龍 宝珠	圏線				白 精良	19C	20209 000027
30 図版10	SK5	磁器	小碗	8.4	3.2	4.1	染付	草花					灰白 精良		20209 000025
31 図版10	SK5	磁器	德利	1.7	-	(6.1)	染付	圏線 帯線					灰白 精良	胴部径:4.8	20209 000028
32 図版10	SK5	土師器	火鉢	-	22.5	(16.8)		回転ナデ	刷毛目		刷毛目	高台部穿孔	細砂粒(雲母・長石・石英)・礫	胴部径:25.6	20209 000029
33 図版10	SK6	磁器	蓋	[9.4]	[3.2] ツマミ	2	染付	区画 四方帯	圏線	草(丸)			白 微砂粒	19C	20209 000016
34 図版10	SK6	陶器	土瓶	10.5	-	(11.0)	褐釉	下部露胎	露胎		三足か	上手・胴部算盤玉形・ 耳山形・S字注口	にふい橙 粗砂粒(長石・石英)	胴部径:21.4	20209 000017
35 図版10	SK7	磁器	蓋	8.2	3.2 ツマミ	2.4	染付	蜻唐草	四方帯	圏線 環状松竹梅	「乾」(変形字)	端反	白 精良	1820～1860	20209 000023
36 図版10	SK7	磁器	蓋	9.2	[3.9] ツマミ	2.9	染付	圏線 下り藤・雀	圏線 下り藤・雀			端反	灰白 微砂粒	19C	20209 000022
37 図版10	SK7	磁器	碗	[7.0]	[3.0]	5.8	染付	輪宝	輪宝	圏線 五弁花		筒型碗	灰 細砂粒	18C中～末	20209 000021
38 図版10	SK7	磁器	碗	[9.0]	3.0	5.4	染付	圏線 寿字	圏線	圏線 五弁花			白 精良	18C	20209 000018
39 図版10	SK7	磁器	皿	-	[11.8]	(3.7)	染付	文様有	牡丹 圏線	五弁花	砂付着	くらわんか手 降灰類着	灰白 微砂粒	18C後～	20209 000019
40 図版10	SK7	土師器	小皿	[6.0]	3.1	1.2		回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り		にふい橙 微砂粒(雲母)		20209 000020
41 図版10	SK11	磁器	碗	-	[2.8]	(4.0)	染付	菊			壺付露胎 不明	コンニャク印判	白 精良	1710～1740	20209 000038
42 図版10	SK11	磁器	碗	[11.8]	-	(2.7)	色絵	菊	雲龍 渦				白 精良	18C	20209 000039
43 図版11	SK11	陶器	鉢	[33.4]	[16.7]	14.1	灰釉 褐釉	下部露胎	口縁部露胎	草花 (指描き)	露胎	折縁口縁	赤橙 粗砂粒(長石・角閃石)		20209 000040

第2表 出土遺物観察表②

遺物番号	出土遺構	種別	器種	法量			染付釉薬	装飾・調整			底面高台内印銘等	特徴	胎土	年代備考	登録番号	
				口径(長)	底径(幅)	器高(厚)		外面	内面	見込み						
44 図版11	SK11	土師器	小皿	[6.6]	[4.6]	1.2		回転ナデ	回転ナデ	回転ナデナデ	糸切り	油煙付着	にぶい橙微砂粒(雲母・長石)		20209 000041	
45 図版11	SK14	磁器	皿	-	[5.0]	(1.5)	染付			文様有		砂付着	灰精良	17C	20209 000043	
46 図版11	SK14	磁器	瓶	-	-	(4.0)	染付	葡萄蔓草	露胎			溝縁口縁	灰白精良		20209 000044	
47 図版11	SK14	陶器	皿	[12.0]	[3.6]	2.6	灰釉	ケズリ下部露胎		砂目か2ヶ所	兜巾露胎	溝縁口縁 二次焼成・煤付着	にぶい黄橙精良	1610~1650	20209 000045	
48 図版11	SK14	陶器	瓶	-	-	(6.8)	緑釉						にぶい赤褐粗砂粒(長石)	武雄系	20209 000046	
49 図版11	SK14	陶器	播鉢	-	-	(5.2)	褐釉	回転ナデ	回転ナデ 播目(11本)			口縁部施釉	にぶい赤褐細砂粒		20209 000047	
50 図版11	SK15	磁器	蓋	[9.8]	[3.8] ツマミ	2.7	染付	梅宝	四方樽	圓線 梅		畳付露胎	白精良	1770~1780	20209 000053	
51 図版11	SK15	磁器	碗	10.8	4.6	5.9	染付	花唐草 圓線	四方樽	圓線 環状松竹梅		畳付露胎	白精良	1750~1770	20209 000049	
52 図版11	SK15	磁器	碗	[11.2]	4.0	6.4	染付	松梅連弁	四方樽	圓線 花		畳付露胎	白精良	1750~1770	20209 000048	
53 図版11	SK15	磁器	碗	11.8	6.4	6.2	染付	菊弁菊	圓線	圓線 火焰宝珠		広東碗 降灰類書	灰白精良	18C後~19C前	20209 000051	
54 図版11	SK15	磁器	碗	11.8	6.4	6.4	染付	岩波か	圓線	圓線 鷺		畳付露胎	広東碗 白精良	18C後~19C前	20209 000050	
55 図版11	SK15	磁器	碗	[7.3]	[3.4]	5.6	染付	連弁 圓線		圓線 五弁花		畳付露胎	筒型碗・口紅 コンニャク印判	灰精良	1770~1780	20209 000052
56 図版11	SK15	磁器	小坏	[7.8]	2.8	3.8	染付	梵字 圓線	圓線	圓線 壽		畳付露胎	白精良	1770~1780	20209 000054	
57 図版11	SK15	磁器	皿	9.9	4.0	2.7	白磁					輪花 油煙付着	灰白精良	18C後~19C	20209 000057	
58 図版11	SK15	磁器	皿	[29.6~ 30.0]	[19.0]	5.7~5.8	染付				人物 建物	目跡2ヶ所 畳付露胎	輪花	灰白精良	20209 000055	
59 図版11	SK15	磁器	段重	[13.4]	[9.0]	4.8	色絵	草・菱・梅	口縁部露胎				灰白精良		20209 000059	
60 図版11	SK15	磁器	瓶	-	7.8	(17.4)	染付	草 圓線	露胎			畳付露胎	陶胎染付 細羅	胴部径:14.4 1820~1860	20209 000068	
61 図版11	SK15	磁器	徳利	1.7	-	(4.8)	染付	文様有	露胎				白精良	胴部径:[5.4]	20209 000056	
62 図版11	SK15	磁器	花生	5.0	4.6~5.2	11.4	白磁	菊・壽 若松	口縁端部の み施釉		布目	型押し・双耳 底部内面布目	灰白精良	胴部径:7.0	20209 000058	
63 図版11	SK15	陶器	埴	[11.8]	4.6	7.5	褐釉					兜巾	黒褐 微砂粒		20209 000060	
64 図版11	SK15	陶器	皿	[11.6]	[3.8]	3.8	透明釉		岩波(鉄絵)			露胎	淡黄 精良	18C	20209 000061	
65 図版11	SK15	陶器	土瓶蓋	5.9	1.8 ツマミ	2.0	鉄釉		露胎			露胎	ツマミ菊花形 細砂粒	最大径8.4	20209 000062	
66 図版11	SK15	陶器	植木鉢	-	12.8	(14.8)	緑釉 褐釉	松か	下部露胎			露胎	焼成後穿孔 (内面から)	灰褐 微砂粒	武雄系 18C前	20209 000063
67 図版12	SK19	磁器	蓋	[9.2]	3.0 ツマミ	2.6	白磁					畳付露胎	白精良		20209 000076	
68 図版12	SK19	磁器	碗	[9.8]	3.8	5.6	染付	桐 圓線				大明年製 畳付露胎	コンニャク印判	18C	20209 000070	
69 図版12	SK19	磁器	碗	11.0	4.5	6.2	染付	山・月 草花・圓線				大明年製 畳付露胎	白精良	1680~1740	20209 000069	
70 図版12	SK19	磁器	碗	9.8	4.2	6.0	白磁					畳付露胎	白精良	17C末~18C初	20209 000074	
71 図版12	SK19	磁器	碗	10.0	4.0	5.3	白磁					畳付露胎	白精良	17C末~18C初	20209 000075	
72 図版12	SK19	磁器	小碗	7.2	3.1	3.1	白磁					畳付露胎	白精良		20209 000077	
73 図版12	SK19	磁器	小碗	6.0	3.0	3.3	色絵	花卉				蛇ノ目高台 畳付露胎	白精良	17C末~18C初	20209 000079	
74 図版12	SK19	磁器	手塩皿	[5.2]	3.1	2.5	染付		五葉若葉				糸切細工	白精良	20209 000072	
75 図版12	SK19	磁器	皿	-	7.2	(3.1)	染付	圓線	圓線 唐花			成年製 目跡1 ヶ所 畳付露胎	型打ち	白精良	20209 000071	
76 図版12	SK19	磁器	徳利	-	-	(7.2)	染付	蔓草					白精良	胴部径:5.8	20209 000073	
77 図版12	SK19	磁器	仏飯器	[7.2]	3.4	4.8	白磁					削り出し	白精良	1690~1780	20209 000078	
78 図版12	SK19	陶器	埴	10.6~ 10.7	4.2	6.7	藁灰釉					砂目3ヶ所 露胎	灰 微砂粒		20209 000080	
79 図版12	SK19	陶器	埴	11.2	4.2	4.3	透明釉			砂目3ヶ所 蛇目軸刺ぎ	砂目3ヶ所 露胎		淡黄 精良		20209 000083	
80 図版12	SK19	陶器	埴	[11.2]	4.4	4.7	透明釉	下部露胎		砂目4ヶ所 蛇目軸刺ぎ	砂目4ヶ所 露胎		淡黄 精良		20209 000084	
81 図版12	SK19	陶器	埴	11.8	4.6	4.8	透明釉	刷毛目	刷毛目			畳付露胎	灰精良	1690~1780	20209 000085	
82 図版12	SK19	陶器	皿	[12.4]	4.4	4.0	褐釉	下部露胎		蛇目軸刺ぎ	兜巾	波縁口縁	灰精良	内野山系	20209 000081	
83 図版12	SK19	陶器	皿	12.0	5.0	3.2	緑釉 透明釉	下部露胎		砂目4ヶ所 蛇目軸刺ぎ	砂目4ヶ所 露胎		淡黄 精良	内野山系	20209 000082	
84 図版12	SK19	陶器	壺	[9.2]	-	(14.8)	褐釉		体部露胎				四耳	灰 粗砂粒(雲母・長石・石英)	胴部径:[19.4]	20209 000087
85 図版12	SK19	陶器	火入	10.0	4.8	5.8	銅緑釉	下部露胎	露胎	胎土目3ヶ所	削り出し	折縁口縁	にぶい黄橙 細砂粒(雲母)	武雄系 18C前~18C中	20209 000086	
86 図版12	SK21	磁器	水滴	4.0	6.7	2.5	染付					無釉 布目跡	白精良		20209 000088	

第3表 出土遺物観察表③

遺物 番号	出土 遺構	種別	器種	法量			染付 釉薬	装飾・調整			底面 高台内 印銘等	特徴	胎土	年代 備考	登録 番号
				口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)		外面	内面	見込み					
87 図版12	SK26 検出中	磁器	小碗	[6.4]	[2.4]	3.2	白磁				墨付露胎	白 精良		20209 000103	
88 図版12	SK26 検出中	磁器	小碗	7.0	3.4	4.7	染付	よろけ縞 圓線			墨付露胎	白 精良	19C	20209 000101	
89 図版12	SK26 検出中	磁器	皿	-	12.0	(2.2)	染付	不明 圓線	波濤 (墨はじき)	環状松竹梅	高台下部露胎	灰白 精良	18C～	20209 000102	
90 図版12	SK26 検出中	陶器	燈明皿	8.0	3.2	2.6	鉄軸	露胎			糸切り 露胎	明赤褐 精良		20209 000104	
91 図版12	SK26 検出中	土師器	小皿	6.5～6.6	3.8	1.7		回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ ナデ	糸切り	浅黄褐 微砂粒(雲母)		20209 000105	
92 図版12	SK26	陶器	皿	[14.4]	5.0	4.2	透明釉			胎土目4ヶ所	胎土目3ヶ所 兜巾	御器手	淡黄 精良	1610～1650	20209 000107
93 図版12	SK26	陶器	皿	-	4.8	(2.6)	透明釉			胎土目4ヶ所	胎土目3ヶ所 兜巾	御器手	淡黄 精良	1610～1650	20209 000110
94 図版12	SK26	陶器	皿	-	[4.4]	(2.4)	灰釉			胎土目3ヶ所	胎土目3ヶ所 兜巾	貫入 御器手	灰白 精良	1610～1650	20209 000106
95 図版12	SK26	陶器	甕	-	-	(3.7)	緑釉	刷毛目	一部露胎				灰 細砂粒	武雄系	20209 000111
96 図版12	SK26	陶器	甕	-	-	(11.7)	褐釉	格子目	格子目 一部露胎			外面沈線 降灰顕著	にふい橙 精良	17C後～	20209 000113
97 図版12	SK26	陶器	壺	-	-	(4.7)	緑釉		露胎				浅黄 微砂粒	武雄系、登録番号 000109と同一	20209 000108
98 図版12	SK26	陶器	壺	-	-	(5.2)	緑釉		露胎				浅黄 微砂粒	武雄系、登録番号 000108と同一	20209 000109
99 図版12	SK26	陶器	掃鉢	-	-	(3.6)	鉄軸		掃目(11本)			口縁部施釉	灰褐 細砂粒		20209 000112
100 図版12	SK27	磁器	碗	7.8	3.4	5.2	染付	稲束 鳥		鳥	墨付露胎	白 精良	18C末～19C	20209 000135	
101 図版12	SK27	磁器	碗	9.8	3.9	4.7	染付	二重網目			墨付露胎	灰白 微砂粒	18C後	20209 000134	
102 図版12	SK27	磁器	碗	12.2	4.4	6.2	染付	唐花 連弁	雷文 圓線	唐花(丸)	墨付露胎	端反碗 素描き	白 精良	19C	20209 000114
103 図版13	SK27	磁器	小碗	6.4	3.0	4.5	染付	雷文・連弁 草(墨はじき)	雷文		墨付露胎	白 精良		20209 000115	
104 図版13	SK27	磁器	小碗	6.3	3.2	5.4	染付		蔓草(丸)		墨付露胎	貫入	灰白 精良	1820～1860	20209 000116
105 図版13	SK27	磁器	小碗	6.5～6.6	3.0	5.6	染付		蔓草(丸)		墨付露胎	灰白 精良	1820～1860	20209 000117	
106 図版13	SK27	磁器	皿	13.2～ 14.0	9.0	4.6	染付	区画・州浜 連続	菊	草・混沙門亀甲・亀 甲・紗綾形・丸	変形字 墨付露胎	型打ち	灰白 精良		20209 000118
107 図版13	SK27	磁器	皿	15.0	8.8	4.6	白磁			目跡3ヶ所	蛇目凹形高台	玉縁口縁 軸に青味有	白 精良	18C後～末	20209 000122
108 図版13	SK27	磁器	小皿	8.6～8.7	4.6	2.3	白磁			菊花	墨付露胎	型打ち 口紅	灰白 精良		20209 000123
109 図版13	SK27	磁器	鉢	[15.4]	8.2	7.4	染付	圓線・区画 花	桐 孔雀	蔓草		型打ち	淡黄 精良		20209 000119
110 図版13	SK27	磁器	花生	6.5	4.8	14.2	染付	草 流水	露胎			双耳 アルミナ砂付着か	灰白 精良	19C 胴部径:6.8	20209 000120
111 図版13	SK27	磁器	香炉	7.4	3.0	4.9	染付	雲龍	下部露胎		露胎	浅黄 微砂粒(雲母)	灰白 精良	1780～1860	20209 000121
112 図版13	SK27	磁器	小壺	7.8	5.4	6.5	青磁				墨付露胎	口縁部外面透明釉 口縁部内面露胎	白 精良	胴部径:10.0	20209 000125
113 図版13	SK27	陶器	蓋	7.8	1.6 ツマミ	3.8	灰軸		露胎			ツマミ丸形	灰白 精良		20209 000136
114 図版13	SK27	陶器	蓋	10.0	-	(3.2)	灰軸		露胎			ツマミ欠損	灰白 精良		20209 000124
115 図版13	SK27	陶器	小碗	7.6	3.2	4.7	白釉	山水(鉄絵)			墨付露胎	端反碗 外面掛分け	にふい、黄橙 精良		20209 000126
116 図版13	SK27	陶器	燈明皿	7.2	2.5	2.4	鉄軸				糸切り	重ね焼き	橙 微砂粒		20209 000128
117 図版13	SK27	陶器	燈明皿	4.7～5.1	2.8	2.8	鉄軸				糸切り	灯籠型	橙 微砂粒	受部径:6.0～6.2	20209 000129
118 図版13	SK27	陶器	燈明皿	[4.8]	[4.2]	2.7	褐釉				糸切り 露胎	灯籠型	にふい、赤褐 微砂粒	受部径:(7.0)	20209 000130
119 図版13	SK27	陶器	燈明皿	[4.4]	4.4	2.9	褐釉				糸切り 露胎	灯籠型	灰 微砂粒	受部径:(6.8)	20209 000131
120 図版13	SK27	陶器	カンテラ	-	3.4	4.8	透明釉				露胎	露胎	灰黄 精良	胴部径:6.4	20209 000137
121 図版13	SK27	陶器	瓶	-	6.0	(18.1)	透明釉	文様有(鉄絵)			「仕入(墨書) 露胎		灰 精良	19C	20209 000143
122 図版13	SK27	陶器	土瓶蓋	5.6	0.4 ツマミ	1.5	灰軸		露胎			ツマミ有 降灰顕著	にふい、橙 粗砂粒		20209 000138
123 図版13	SK27	陶器	土瓶蓋	8.6	-	(2.5)	鉄軸		露胎			ツマミ欠損	浅黄 精良		20209 000139
124 図版13	SK27	陶器	土瓶蓋	6.0	1.2 ツマミ	2.9	鉄軸		露胎			ツマミ丸形	灰黄 微砂粒		20209 000127
125 図版13	SK27	陶器	土瓶	5.2	6.0	9.9	鉄軸	口縁・下部露胎	一部露胎		墨書有 露胎	上手・耳山形 基部底・注口S字形	灰黄 精良	胴部径:12.6	20209 000140
126 図版13	SK27	陶器	土瓶	5.6	5.5	9.0	褐釉	口縁・下部露胎	上部露胎		露胎	上手・耳山形 注口欠損	にふい、橙 微砂粒	胴部径:13.2	20209 000141
127 図版13	SK27	陶器	土瓶	7.2	7.5	10.6	褐釉	沈線・木賊 口縁・下部露胎	上部露胎		露胎	上手・耳山形 注口鉄砲形・煤付着	淡橙 細砂粒	胴部径:16.4	20209 000142
128 図版13	SK27	陶器	土鍋	19.4	[7.8]	10.7	鉄軸	下部露胎			露胎	両手 煤付着	灰黄 微砂粒	胴部径:22.0	20209 000132
129 図版13	SK27	陶器	鉢	26.4	15.4	16.9	薬灰軸			胎土目6ヶ所	露胎		にふい、黄橙～浅黄橙 細砂粒		20209 000146

第4表 出土遺物観察表④

遺物 番号	出土 遺構	種別	器種	法量			染付 釉薬	装飾・調整			底面 高台内 印銘等	特徴	胎土	年代 備考	登録 番号	
				口径 (長)	底径 (幅)	器高 (厚)		外面	内面	見込み						
130 図版14	SK27	陶器	鉢	34.6	18.6	(18.5)	藁灰釉	下部露胎		胎土目9ヶ所	胎土目8ヶ所 露胎		灰 粗砂粒(長石)		20209 000147	
131 図版14	SK27	陶器	こね鉢	(38.0)	12.4	16.2	白釉	鉄釉	松(鉄絵)	砂目	高台部露胎	二彩陶器 重ね焼き		武雄系 18C後～19C	20209 000148	
132 図版14	SK27	陶器	植木鉢	(17.0)	9.0	13.1	藁灰釉 褐釉	櫛描き	口縁部施釉		露胎	外面掛分け	褐灰 細砂粒		20209 000144	
133 図版14	SK27	陶器	植木鉢	49.6	22.0	23.8	褐釉	水草状突帯 縄状突帯		格子目			にぶい・橙～褐 細砂粒		20209 000145	
134 図版14	SK27	陶器	播鉢	34.0	12.4～ 12.9	11.9	褐釉		描目 (15・16本)		平底 露胎		にぶい・橙 礫	18C後～	20209 000149	
135 図版14	SK27	土師器	風炉	27.4	28.0	23.8		梅(スタンプ文)	ナデ 刷毛目	刷毛目		赤化粧 煤付着	明赤褐～にぶい・黄橙 粗砂粒(雲母・長石)	胴部径:33.4	20209 000150	
136 図版14	SK27	土師器	火鉢	28.5～ 39.5	22.0～ 34.4	17.4		ナデ 刷毛目	ナデ 刷毛目	刷毛目		赤化粧 二次焼成	橙 粗砂粒(雲母・長石)		20209 000133	
137 図版14	SK29	磁器	小坏	6.8	2.6	3.2	染付	圏線	圏線	圏線	畳付露胎		白 精良		20209 000151	
138 図版14	SK29	土師器	小皿	8.7	4.8	2.1		回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ ナデ	糸切り	煤付着	にぶい・橙～浅黄橙 粗砂粒		20209 000153	
139 図版14	SK29	土師器	燈明皿	6.7	3.6	1.6		回転ナデ	回転ナデ	回転ナデ	糸切り	油煙付着	浅黄～にぶい・橙 微砂粒		20209 000152	
140 図版14	SK30	磁器	碗	7.7	[4.0]	7.1	染付	詩歌 瑠璃釉	罌幕		畳付露胎		灰白 精良	19C	20209 000154	
141 図版15	SK34	磁器	鉢	-	-	(4.8)	染付	圏線	区画 牡丹	圏線 草花	文様有 畳付露胎		灰白 精良	登録番号 000156と同一	20209 000157	
142 図版15	SK34	磁器	鉢	-	-	(4.9)	染付	草花か	区画 牡丹				灰白 精良	登録番号 000157と同一	20209 000156	
143 図版15	SK34	陶器	播鉢	-	-	(3.6)	褐釉		描目 (7本か)				にぶい・赤褐 微砂粒		20209 000158	
144 図版15	SK35	磁器	水滴	(7.1)	(6.0)	2.7～3.3	色絵			一部露胎		型押し 鼓形	灰白 精良		20209 000159	
145 図版15	SK35	陶器	鉢	(28.4)	-	(5.8)	緑釉 褐釉	櫛目					灰黄 細砂粒		20209 000160	
146 図版15	SK36	磁器	碗	-	-	(4.8)	染付	若松					白 精良		20209 000162	
147 図版15	SK36	陶器	埴	-	-	(3.6)	透明釉	文様有(鉄絵)					淡黄 精良		20209 000165	
148 図版15	SK36	陶器	壺	-	-	(14.8)	褐釉	格子目 縄状突帯	格子目				赤褐 精良	17C前	20209 000163	
149 図版15	SK36	陶器	播鉢	-	-	(5.8)			描目 (11本)			口縁部施釉	赤褐 精良		20209 000164	
150 図版15	SK37	磁器	碗	9.7	3.9	5.6	白磁				畳付露胎	口紅	灰白 精良	18C	20209 000167	
151 図版15	SK37	陶器	皿	14.0	6.0	3.6	染付	蔓草 圏線	牡丹 蝶	牡丹	「朝」	口紅	灰 精良	朝妻焼 18C前	20209 000166	
152 図版15	SK37	瓦質 土器	鉢	-	-	(18.2)		刷毛目 ナデ・オサユ	刷毛目 ナデ・オサユ				灰～褐灰 礫(雲母・長石・石英)		20209 000168	
153 図版15	SK38	磁器	碗	8.6	3.4	4.7	白磁				畳付露胎	口紅	白 精良		20209 000171	
154 図版15	SK38	磁器	皿	(9.4～ 9.8)	[5.3]	2.5～2.6	染付	松葉	菊		畳付露胎 砂付着	型打ち・輪花 コンニャク印判	白 精良	1690～1780	20209 000172	
155 図版15	SK38	磁器	皿	12.8	7.3	2.9	染付	蔓草 圏線	半菊唐草	圏線 五弁花	大明年製 畳付露胎	口紅 コンニャク印判	白 精良	1690～1780	20209 000173	
156 図版15	SK38	磁器	皿	(13.6)	[8.4]	2.8	染付	花唐草 圏線	帯線	圏線 鶴・草	畳付露胎	「福」	漆継ぎ	白 精良	17C末～18C	20209 000169
157 図版15	SK38	磁器	水滴	(6.6)	2.6	2.0	染付	文様有	布目		底面露胎	竹形	灰白 精良		20209 000174	
158 図版15	SK38	磁器	不明	(3.1)	(3.1)	0.5	染付	文様有					灰白 精良		20209 000170	
159 図版15	SK38	陶器	鉢	(21.8)	-	(5.7)	透明釉	刷毛目 下部露胎	刷毛目 下部露胎	刷毛目 下部露胎		玉縁口縁 二次焼成	浅黄 微砂粒		20209 000175	
160 図版15	SK38	土師器	燈明皿	8.1	3.8	1.7		回転ナデ	回転ナデ	ナデ	糸切り	油煙付着	淡黄 微砂粒(雲母)		20209 000176	
161 図版15	SK40	磁器	皿	-	-	(1.9)	染付	文様有	草か		畳付露胎		白 精良	17C	20209 000178	
162 図版15	SK40	磁器	碗	(11.0)	-	(5.0)	青磁	圏線				片彫り	白 精良	1630～1650	20209 000177	
163 図版15	SK40	陶器	皿	(12.6)	[4.2]	5.0	褐灰釉	鳥か(鉄絵) 下部露胎	植物(鉄絵)	鳥か(鉄絵)	露胎 砂目1ヶ所		にぶい・黄 微砂粒	唐津系 1610～1650	20209 000179	
164 図版15	SK42	磁器	皿	-	-	(1.7)	染付		圏線 桐			頸縁口縁	灰白 精良		20209 000180	
165 図版15	SK42	陶器	播鉢	-	-	(4.7)	褐釉		描目 (7本)			口縁部施釉	灰褐 粗砂粒		20209 000181	
166 図版15	SK43	磁器	蓋	-	-	(4.5)	染付	帯線 繪唐草			圏線	ツマミ欠損	白 精良	1690～18C前	20209 000182	
167 図版15	SK43	磁器	紅皿	(8.2～ 8.4)	-	(1.3)	白磁					型打ち 紅付着	灰白 精良		20209 000183	
168 図版16	SK44	磁器	皿	(13.7)	[5.4]	4.3	染付		圏線	蛇ノ目軸剥ぎ	砂目2ヶ所	生掛け	灰白 精良	18C	20209 000185	
169 図版16	SK44	陶器	埴	10.4	4.4	7.4	天目釉				畳付露胎		灰～灰黄 精良	1650～1690	20209 000186	
170 図版15	SK44	陶器	香炉	-	[3.6]	5.4	灰釉 褐釉		露胎	露胎	露胎		灰 精良		20209 000187	
171 図版15	SK44	瓦質 土器	火鉢	-	-	(8.3)		菊・菱 (スタンプ文)	刷毛目				灰 粗砂粒(雲母・長石・石英)		20209 000188	
172 図版16	SK45	磁器	碗	(10.6)	4.3	6.2	染付	圏線 蝶			畳付露胎		灰白 微砂粒	17C末～18C前	20209 000189	
173 図版16	SK45	磁器	皿	(13.2)	8.5	3.2	染付	草	圏線	桐 天下皆秋	圏線・畳付露胎 目録1ヶ所		灰白 精良	17C末～18C初	20209 000190	

第5表 出土遺物観察表⑤

遺物 番号	出土 遺構	種別	器種	法量			染付 釉薬	装飾・調整			底面 高台内 印銘等	特徴	胎土	年代 備考	登録 番号
				口径	底径	器高		外面	内面	見込み					
				(長)	(幅)	(厚)									
174 図版16	SK46	磁器	皿	-	-	(1.8)	染付	蔓草	斜格子			口紅 白 精良	18C後	20209 000191	
175 図版16	SK46	陶器	甕	-	-	(8.7)	褐釉	波	一部露胎			降灰顕著 灰 微砂粒	17C後	20209 000192	
176 図版16	SK47	磁器	碗	[10.8]	-	(4.2)	灰釉	下部露胎				灰白 精良	1610~1650	20209 000195	
177 図版16	SK47	陶器	皿	-	4.1	(2.2)	灰釉	露胎		砂目3ヶ所	露胎	にぶい黄橙 精良	1610~1650 登録 番号000197と同一	20209 000194	
178 図版16	SK47	陶器	皿	-	4.3	(2.1)	灰釉			砂目4ヶ所	砂目4ヶ所 兜巾	にぶい黄橙 精良	1610~1650	20209 000193	
179 図版16	SK47	陶器	皿	-	-	(1.3)	灰釉					溝縁口縁 明褐 精良	1610~1650 登録 番号000194と同一	20209 000197	
180 図版16	SK47	陶器	皿	-	-	(2.5)	灰釉	下部露胎				溝縁口縁 にぶい黄 精良	1610~1650	20209 000196	
181 図版16	SK48	磁器	碗	-	-	(4.9)	染付	圓線 遠山				灰白 精良	17C後	20209 000198	
182 図版16	SK48	陶器	皿	[14.8]	-	(3.1)	透明釉					淡黄 精良		20209 000199	
183 図版16	SK48	陶器	鉢	[11.0]	-	(6.0)	銅緑釉					灰黄 精良		20209 000200	
184 図版16	SK49	磁器	碗	-	3.8	(3.5)	青白磁	圓線			一部露胎	降灰顕著 灰白 精良		20209 000201	
185 図版16	SK49	陶器	皿	[11.8]	-	(1.5)	灰釉					溝縁 灰 精良		20209 000202	
186 図版16	SK49	陶器	播鉢	[34.5]	12.4	14.2	褐釉		播目 (10本)	播目	胎土目6ヶ所 糸切刃・平底	口縁部施軸 片口 にぶい橙 礫		20209 000203	
187 図版16	SK51	磁器	碗	[14.4]	[4.0]	6.2	色絵	折枝 菊花			墨付露胎	嗽境 白 精良	17C後~末	20209 000207	
188 図版16	SK51	磁器	碗	-	3.6	(3.5)	染付	文様有 圓線			圓線	墨付露胎 白 精良		20209 000206	
189 図版16	SK52	磁器	皿	-	4.8	(2.1)	染付			圓線 牡丹	墨付露胎	型打ち 降灰顕著 灰白 精良	17C前	20209 000208	
190 図版16	SK52	陶器	鉢か	-	-	(3.8)	緑釉 褐釉	櫛目				黄灰 精良		20209 000209	
191 図版17	SX10 第4層	磁器	碗	[9.2]	[3.6]	5.2	染付	圓線	圓線	火焰宝珠	墨付露胎	白 精良	18C後	20209 000036	
192 図版17	SX10	磁器	碗	-	-	(2.6)	染付	唐草	圓線			端反碗 灰白 精良	19C	20209 000035	
193 図版17	SX10	陶器	甕	-	-	(7.0)	褐釉	回転ナデ	回転ナデ			橙 粗砂粒(長石)		20209 000034	
194 図版17	SX10	陶器	甕	-	32.3	(48.6)	褐釉	格子目 ナデ	格子目 ナデ	格子目	露胎	灰褐・にぶい赤褐 細砂粒		20209 000037	
195 図版17	SP3	磁器	碗	[9.4]	4.0	4.8	染付	菊 米裂				灰白 微砂粒	18C後	20209 000014	
196 図版17	SP4	磁器	小碗	7.5	3.0	4.3	染付	雨降 圓線				白 精良	18C前	20209 000015	
197 図版17	SP9	須恵器	坏身	[13.6] 返し	-	(3.0)		回転ナデ 回転ヘラケズリ	回転ナデ			微砂粒(長石)・粗礫	6C後	20209 000033	
198 図版17	SK2	土製品	人形	2.7	2.8	0.5~1.4						型押し・接着 富士見西行形 微砂粒(雲母)	重5.0g	20209 000010	
199 図版17	SK2	土製品	人形	2.9	2.2	0.5~1.0						型押し・接着 天神形 精良	重3.6g	20209 000011	
200 図版17	SK2	土製品	人形	3.3	2.2	0.9~1.6						型押し・接着 猿形 精良	重6.1g	20209 000012	
201 図版17	SK11	土製品	土鈴	4.9	3.7	3.5		ナデ 押し	ナデ 押し			白化粧残存 細砂粒(雲母・長石)	重:21.8g	20209 000042	
202 図版17	SK15	土製品	人形	(3.0)	4.4	2.1						型押し・接着 獅子 微砂粒(雲母)	重:20.5g	20209 000066	
203 図版17	SK35	土製品	土鈴	4.1	3.2	2.7		ナデ 押し	ナデ 押し			土玉あり 白化粧残存 細砂粒(雲母・長石)	重:16.8g	20209 000161	
204 図版17	SK43	土製品	蓋か	-	2.8	2.4		ナデ 押し	ナデ 押し			白化粧残存か にぶい黄橙・にぶい黄褐 微砂粒・赤色粒子	重:19.5g 最大径:4.4	20209 000184	
205 図版17	SD8	銅製品	銭貨	2.45	2.45	0.15						古寛永	重2.10g	20209 000211	
206 図版17	SD8	銅製品	銭貨	2.5	2.45	0.15						古寛永	重2.14g	20209 000210	
207 図版17	SK15	銅製品	銭貨	2.35	2.35	0.1						新寛永	重:1.68g	20209 000216	
208 図版17	SK29	銅製品	簪	(12.2)	(0.45~ 1.5)	0.15~ 0.25							重5.84g	20209 000212	
209 図版17	SK29	銅製品	煙管	6.25	0.3~ 1.25							吸口	重3.69g	20209 000213	
210 図版17	SK36	銅製品	煙管	(3.5)	2.95							雁首	火皿部径:1.95 重6.53g	20209 000214	
211 図版17	SK43	銅製品	銭貨	2.45	2.45	0.15						古寛永	重2.80g	20209 000215	
212 図版17	SK15	鉄製品	刀子	(12.5)	1.95~ 3.75	0.15~ 0.55						木質残存	重56.19g	20209 000217	
213 図版17	SK2	ガラス 製品	瓶	(0.9)	1.3	3.9					上底	気泡含む 継目 青緑透明	胴部径:(1.4) 重3.6g	20209 000013	
214 図版17	SK15	ガラス 製品	簪か	(3.7)	0.4	0.4						淡青緑	重:1.5g	20209 000067	
215 図版17	SK7	瓦	軒丸瓦	(5.5)	(5.4)	2.2		巴・珠文	ナデ			二次焼成	粗砂粒(雲母・長石・石英)	重60.1g	20209 000024
216 図版17	SK15	瓦	軒丸瓦	(13.0)	(7.0)	2.0		花・珠文 ナデ	ナデ ケズリ				細砂粒(長石)	重:167.8g	20209 000064
217 図版17	SK15	瓦	軒丸瓦	16.6	(13.9)	2.1		巴・珠文(12) ナデ	ナデ				微砂粒(雲母・長石)	重490.0g	20209 000065

IV. 総括

本調査は久留米城外郭の南東部に形成された原古賀町一丁目における発掘調査で、町屋内の遺構の分布状況を把握すること、また、当町の東境や旧池町川流路を確認することを目的として調査を実施した。結果、町境や旧河川を検出することはできなかったが、溝2条、井戸2基、土坑36基、埋甕遺構1基および地割れ痕跡を検出するとともに、古墳時代の所産を含むピットを確認することができた。以下、近世の遺構を中心に整理し、総括としたい。

まず、時代順に概観すると、17世紀の遺構としてはSK14・26・36・40・47～49・51・52が確認され、Ⅱ区南西を中心に分布する。18世紀に比定されるものはSK11・19・37・38・43～46等に加え、SD8やSE33・50を挙げられるが、SE33は19世紀に下る可能性もある。これらの分布は、前代と同じくⅡ区を中心としつつもⅠ区東端にも広がりを見せる。19世紀から幕末にかけては、SK2・5～7・15・30・32、SX10などが営まれており、Ⅰ・Ⅱ区の北半を中心に検出された。

土坑については穴倉や廃棄土坑が大半を占めるが、SK37・43は多量の焼土を含むことから火災にともない18世紀前半に埋没した可能性がある。SK37は朝妻焼の皿が出土しており、朝妻焼が藩営事業として創業した正徳5年（1715）以後に埋没したことになる。この時期の大きな火災としては、原古賀町内の200軒程度を焼失した享保9年（1724）の火災や、府下大半を焼失した同11年（1726）の田代火事などが挙げられる。溝については、SD8が区画を意図したものと推察され、本遺構の東側の空間と西側に設けられた土坑や井戸との空間を画したものであろうか。また、SD25は詳細な性格までは言及できないが、規模や形状から町境や町屋境とは考え難く、近代の可能性も残る。SX10はトイレ遺構と考えていたが、明解な糞石等を検出できなかったため、用途不明と言わざるを得ない。なお、これらの遺構が構成する空閑地に、建物等を確認することはできなかった。

本調査で検出された近世の遺構は、調査地の西側を南北に走る柳川往還から10m以上を隔てて検出したことから、往還に東接する表長屋の裏庭に営まれた遺構群と思われる。また、削平の影響も考慮する必要があるが、検出遺構には町屋境が確認できなかったことから、表口は7間以上を測るものと考えられる。町屋1軒分の敷地としては広大であるが、『石原家記』や『久留米藩旧家由緒書』には表口8間以上を有する商家が散見される。この中には町別当や目付などを担った家もあり、当地についても有力な商家が所有していた可能性がある。原古賀町の目付役は詳らかではないが、別当は江戸初期に大坂屋が、寛文元年（1661）からは田鍋屋が代々務めている。

最後に、地割れ痕跡については遺構や攪乱との重複関係から18世紀以前の所産と考えられる。本遺跡の周辺では、十間屋敷遺跡（第5次調査、久留米市文化財調査報告書第366集）、京隈侍屋敷遺跡（第12次、同227集）および鳥飼小学校校庭遺跡（第1次、同157集）などでも検出されている。これら既往の調査で確認された地割れ痕跡が概ね東西方向に認められるのに対して、今回検出した痕跡は南北方向に確認されており注目される。

写 真 图 版



(1) I区全景 (北東から)



(2) II区全景 (北東から)

図版 2



(1) II区西側トレンチ掘削状況 (南西から)



(2) SD 8 掘削状況 (北東から)



(3) SD 25 A-A' 間土層 (北西から)



(4) SD 25 B-B' 間土層 (北西から)



(5) SD 25 C-C' 間土層 (北西から)



(6) SD 25 掘削状況 (北西から)



(7) SE 33 土層 (東から)



(8) SE 50 土層 (東から)



(1) SE 50 掘削状況 (東から)



(2) SK 1 完掘状況 (北西から)



(3) SK 2 完掘状況 (北から)



(4) SK 5 完掘状況 (北西から)



(5) SK 6 完掘状況 (西から)



(6) SK 7 完掘状況 (西から)



(7) SK 11 土層 (北西から)



(8) SK 11 完掘状況 (北西から)

図版 4



(1) SK 14 掘削状況 (北東から)



(2) SK 15 土層 (東から)



(3) SK 19 土層 (北東から)



(4) SK 19 掘削状況 (南東から)



(5) SK 20 掘削状況 (西から)



(6) SK 21 完掘状況 (東から)



(7) SK 22 掘削状況 (北西から)



(8) SK 23 完掘状況 (北西から)



(1) SK 24 完掘状況 (北から)



(2) SK 26 土層 (北東から)



(3) SK 26 遺物出土状況 (南東から)



(4) SK 26 遺物出土状況部分拡大 (北東から)



(5) SK 27 完掘状況 (北から)



(6) SK 30 完掘状況 (北東から)



(7) SK 31 完掘状況 (北西から)



(8) SK 32 土層 (南から)

図版 6



(1) S K 32 完掘状況 (東から)



(2) S K 34 土層 (北西から)



(3) S K 34 完掘状況 (北西から)



(4) S K 35 完掘状況 (北東から)



(5) S K 36 完掘状況 (北東から)



(6) S K 37 土層 (北東から)



(7) S K 37 完掘状況 (南西から)



(8) S K 38 完掘状況 (北から)



(1) SK 40 完掘状況 (南西から)



(2) SK 42 完掘状況 (東から)



(3) SK 43 土層 (南東から)



(4) SK 43 完掘状況 (南東から)



(5) SK 44 土層 (南東から)



(6) SK 44 完掘状況 (南東から)



(7) SK 45 完掘状況 (北西から)



(8) SK 46 完掘状況 (南西から)

図版 8



(1) SK 47 土層 (北東から)



(2) SK 47 完掘状況 (東から)



(3) SK 48 土層 (北東から)



(4) SK 49 土層 (北東から)



(5) SK 48・49 完掘状況 (西から)



(6) SK 51 完掘状況 (北東から)



(7) SK 52 完掘状況 (北東から)



(8) SX 10 土層 (南東から)



(1) S X 10 遺物出土状況 (北西から)



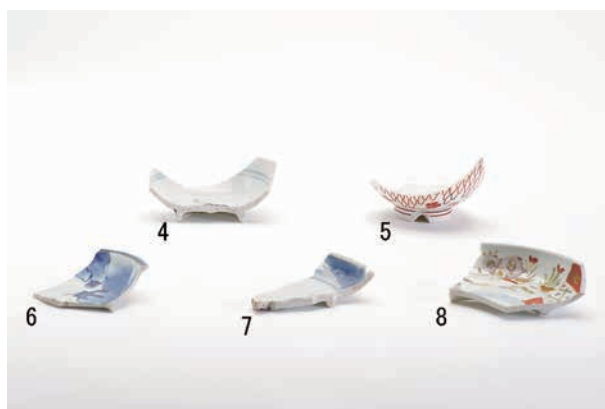
(2) S X 10 完掘状況 (北東から)



(3) S X 100 検出状況 (北から)

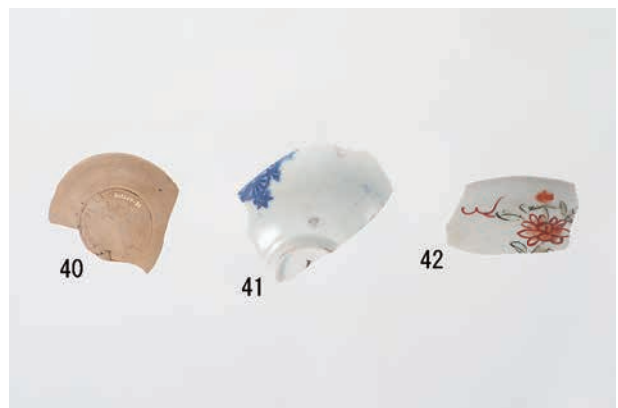


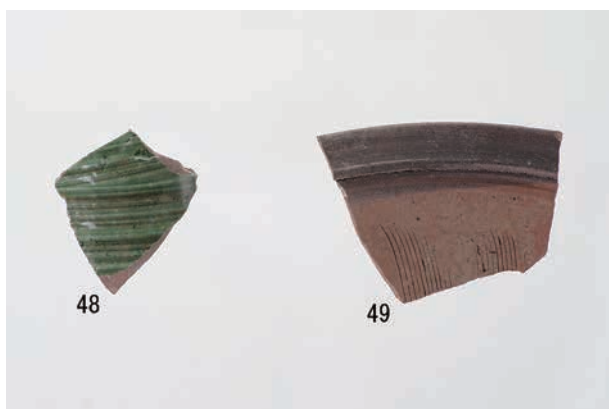
(4) S X 100 土層 (北東から)



出土遺物①

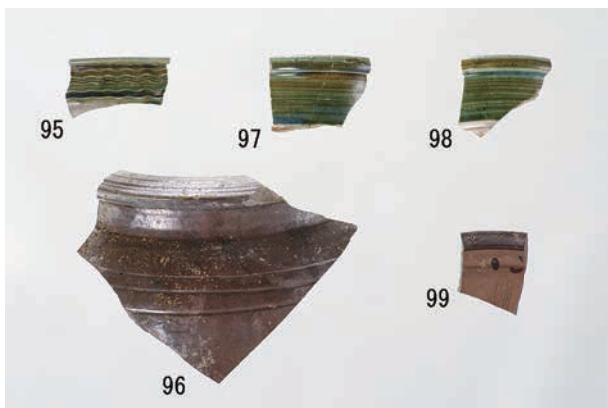
図版 10





出土遺物③

图版 12

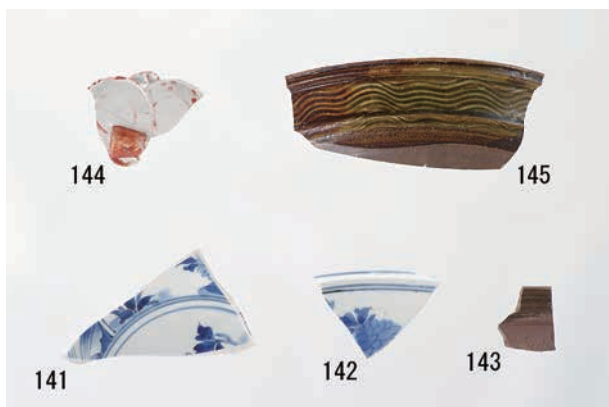


出土遺物④

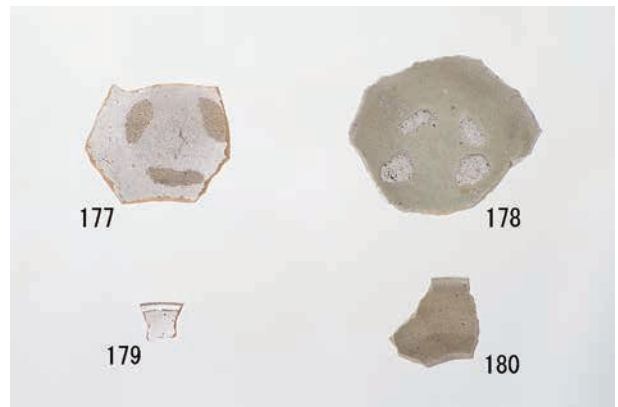


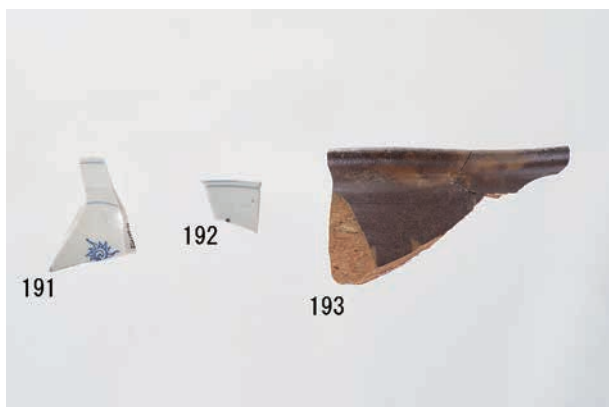
図版 14





図版 16





報告書抄録

ふりがな	くるめじょうかまちいせきだい31じはくつちようさほうこく
書名	久留米城下町遺跡第31次発掘調査報告
シリーズ名	久留米市文化財調査報告書
シリーズ番号	第452集
編著者名	廣木 誠
編集機関	久留米市 市民文化部 文化財保護課
所在地	〒830-8520 福岡県久留米市城南町15-3 Tel : 0942-30-9225 FAX : 0942-30-9714 Email : bunkazai@city.kurume.lg.jp
発行年月日	2024（令和6）年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
くるめじょうかまちいせき 久留米城下町遺跡 第31次調査	くるめしひよしまち 久留米市日吉町 5-9, -10, -11, -56	40203	031132	33° 18' 56"	130° 30' 34"	20221006 ～ 20221215	205 m ²	記録保存調査
所収遺跡名	種別	時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
久留米城下町遺跡 第31次調査	集落	古墳 近世	ピット 溝 井戸 土坑 埋甕遺構 地割れ痕跡		2条 2基 36基 1基 須恵器、近世陶磁器、土 師器、瓦質土器、土製 品、ガラス製品、金属製 品、瓦		久留米城下の原古賀町一 丁目における町屋の調査。	
要約								
調査地は、絵図等によれば久留米城外郭の南東に展開する久留米城下町の中心部に位置し、池町川の南側に形成された原古賀町一丁目の中央付近にあたる。調査の結果、17世紀前半から幕末までの遺構を中心に検出した。これらの遺構は、柳川往還に東接する町屋の裏庭に営まれたものと推察される。また、町屋の境を確認することができなかつたため、表口は7間以上を測るものと考えられる。『石原家記』や『久留米藩旧家由緒書』には表口8間以上を有する商家が散見され、この中には町別当や目付などを担った家もある。このことから、当地についても原古賀町の別当であった大坂屋や田鍋屋などの有力な商家が所有していた可能性がある。								
土木工事の届出日	令和4年8月8日			遺物の発見通知日	令和4年12月20日 (4文財第2609号)			

久留米城下町遺跡

— 第31次発掘調査報告 —

久留米市文化財調査報告書 第452集

令和6年3月31日

発行 久留米市教育委員会

編集 久留米市 市民文化部 文化財保護課

印刷 香和印刷株式会社